

授 業 科 目 名		統合研究セミナー	授業方法	演 習
担 当 教 員 名		指 導 教 員、 副 指 導 教 員	単 位 数	2単位
講 義 の 概 要 及 び 達 成 目 標		研究領域の異なる指導教員と副指導教員の緊密な連携による、その学際領域を研究テーマとする学生の研究の独創性のある統合的な開拓を目標としたセミナーを行う。可能な限り指導教員及び副指導教員が学生とともに、研究テーマ解明のための方策に関して考究する。 また、「論文指導研究会」及び「学位論文発表会」に参加することで、幅広い研究領域の研究成果の理解と研究におけるプレゼンテーション能力やコミュニケーションスキルを高める。 なお、論文指導研究会において、作成途中の学位論文に係る研究を合計3回発表し、指導教員以外を含めて博士後期課程担当教員から研究指導を受ける。 1年次には、研究テーマを解明するための新しい研究手法の開発について、集中的にティームティーチング方式によるセミナーを行う。 2年次には、その研究手法を用いて研究を進めながら、得られたデータについてティームティーチング方式によるセミナーを行う。 3年次には、研究の遂行によって得られたデータを博士論文として取りまとめるためのセミナーを行い、博士論文作成のための研究指導を行う。		
成績評価の方法 ・基準		博士論文作成の取り組み、論文指導研究会及び学位論文発表会での発表内容等を踏まえて総合的に評価する。		
履修条件・関連科目		特になし		
テキスト、教材 参考書		教 材： 随時必要な原著論文などを用いる。 参考書： 創造的進化； ベルクソン著・真方敬道訳、岩波書店 バートランド・ラッセル著作集(別巻)私の哲学の発展； バートランド・ラッセル著・野田又夫訳、みすず書房 実験医学序説； クロード・ベルナル著・三浦岱栄訳、岩波書店 自然の歴史； C.F. ヴァイツェッカー・西川富雄訳、法律文化社 シネクティクスー創造工学への道ー； W. J. J. ゴードン著・大鹿譲、金野正共訳、丸善		
備 考				
オフィスアワー		随時 指導教員、副指導教員		
授 業 計 画				
年次	担当教員名	授 業 内 容		
1 年	指導教員、 副指導教員	学際領域を開拓しようとする新たな研究領域における研究手法について、その方法・原理を解説し、疑問点等についてのティームティーチング方式によるセミナーを行う。 研究テーマを解明するために、研究領域間の統合による独創的な学際的研究手法を見出し、これまでにない学際領域を開拓・創造することを目指す。それぞれの研究領域における手法及び原理を追究し、研究テーマの解明に必要な新しい研究手法を開発するセミナーを行う。		
2 年	指導教員、 副指導教員	1年次のセミナーによって見出された、研究領域間の統合による独創的な学際的研究手法を用いた研究を遂行することによって、研究テーマに関するデータを得る。そのデータを検討し、研究を更に進展させる。研究テーマの解明を目指して研究指導を行う。		
3 年	指導教員、 副指導教員	2年次の新しい研究手法を用いた研究によって得られたデータを取りまとめて、論文を作成するための研究指導を行う。		

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ【KR】 (311A0-1301)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (共通)	
担当教員名	飯干 明・小澤 雄二・森 司朗・田巻 弘之・関 朋昭・中本 浩揮・高井 洋平				補助担当者名		
単位数	1 単位		履修年次	—		受け入れ人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	複雑な現代社会において、心身の健康の維持・向上の問題を解決するためには、より学際的かつ複合的な視点から体育学・スポーツ科学をとらえる必要がある。 本講義では、この視点から、複合領域の「体育学」「スポーツ科学」に関して身体教育学系、スポーツ科学系、応用健康科学系の3つの研究分野から各専門分野の教員がオムニバス形式で解説を行う。これにより、複合領域としての体育学・スポーツ科学の学問特性に関する基礎的知識を修得し、高度な専門的指導者としての教養を身につけることを目的とする。						
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（40%） ☒ レポート等の提出状況（60%） を総合的に評価する。						
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取組み状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。						
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。						
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)				
オフィス・アワー	担当教員ごとに要予約（相談）						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	飯干 明	体育学における学際的視点の必要性①			体育学の研究領域・身体適応論（1時間）		
2	高井 洋平	トレーニング科学からみた研究アプローチ			トレーニング科学、運動生理学の概要（1時間）		
3	田巻 弘之	神経・筋肉生理学からみた研究アプローチ			神経と筋生理の概要（1時間）		
4	森 司朗	運動発達からみた研究アプローチ			発育発達論の概要（1時間）		
5	田巻 弘之	体育・スポーツ経営からみた研究アプローチ			体育管理・スポーツビジネスの概要（1時間）		
6	小澤 雄二	運動学・コーチ学からみた研究アプローチ			バイオメカニクスの概要（1時間）		
7	中本 浩揮	スポーツ心理学からみた研究アプローチ			体育・スポーツの心理学的側面（1時間）		
8	森 司朗	体育学における学際的視点の必要性②			体育学の学際的視点について（1時間）		

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ【KR】 (311B0-1302)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (共通)
担当教員名	飯干 明・井福 裕俊・坂本 将基・山田 理恵・塩瀬 圭佑・村田 宗紀				補助担当者名	
単位数	1 単位		履修年次	—		受け入れ人数 5名程度
授業の概要 及び達成目標	複雑な現代社会において、心身の健康の維持・向上の問題を解決するためには、より学際的かつ複合的な視点から体育学・スポーツ科学をとらえる必要がある。 本講義では、この視点から、複合領域の「体育学」「スポーツ科学」に関して身体教育学系、スポーツ科学系、応用健康科学系の3つの研究分野から各専門分野の教員がオムニバス形式で解説を行う。これにより、複合領域としての体育学・スポーツ科学の学問特性に関する基礎的知識を修得し、高度な専門的指導者としての教養を身につけることを目的とする。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（40％） ☒ レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取組み状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	飯干 明	体育学における他領域への貢献を考える①			体育学の研究領域について（1時間）	
2	塩瀬 圭佑	健康と運動生理生化学からみた研究アプローチ			身体運動と健康について（1時間）	
3	飯干 明	体育学からみた研究アプローチ			身体性と健康づくり（1時間）	
4	井福 裕俊	循環システム学からみた研究アプローチ			身体運動と心臓循環機能（1時間）	
5	山田 理恵	体育・スポーツ史からみた研究アプローチ			体育・スポーツ科学の進歩と展望（1時間）	
6	坂本 将基	運動制御学からみた研究アプローチ			身体運動と脳・神経および健康（1時間）	
7	村田 宗紀	バイオメカニクスからみた研究アプローチ			授業内容の予習と復習（1時間）	
8	飯干 明	体育学における他領域への貢献を考える②			体育学の研究領域の学際性（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コア特殊研究・実習（フィールドワーク型）		授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通 (共通領域)
担当教員名	金高 宏文・研究科教務委員会				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	2~3
授業の概要 及び達成目標	今日、小学校における体育科教育では、教師の「実践的指導力」の向上が求められている。また、文部科学省は小学校高学年での「教科担任制」の導入を進めており、「体育」の対象教科となっている。 本授業では、大学内で行う演習等で身につけた知識や指導スキルを活用し、大学外で実際に小学校の体育授業の指導補助や授業支援を行う。学校現場での複数回の指導補助や授業支援の実習を通して、小学校における教員のニーズに対応した、体育科教育における学習支援（コーディネート）を行えることを目標としている。 本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先での活動が中心になる。修得できる単位は最大3単位とし、その場合の実習は60時間以上とする。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業（演習・実習）への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業・打ち合わせへの積極的な取り組み、レポート、実習（模擬授業）の内容により総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜、提示する。					
履修条件・ 関連科目	中学校の保健体育科の教員免許状を有していること		備考(教員メッ セージ含む)	フィールドワーク型の演習・実習を実施する受入先は、原則、鹿屋市内の小学校とする。		
オフィス・アワー	随時：研究棟7階 703教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	オリエンテーション コア実習の目的・意義・内容			授業の復習(30分)	
2	〃	事前学修（理論学習、模擬授業、教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
3	〃	事前学修（理論学習、模擬授業、教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
4	〃	事前学修（理論学習、模擬授業、教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
5	〃	事前学修（理論学習、模擬授業、教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
6	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察 ※演習・実習の期間 ・2単位の場合は、実習30コマ（30時間：積み上げ） ・4単位の場合は、実習60コマ（60時間：積み上げ）			実習の準備と整理(120分)	
7	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
8	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
9	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
10	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
11	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
12	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
13	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
14	〃	小学校体育授業補助体験の実践発表①			発表の準備(60分)	
15	〃	小学校体育授業補助体験の実践発表②			発表の振り返り(60分)	
16	〃	全体省察				

授業科目名 (ナンバリングコード)	コープ特殊研究・実習（インターンシップ型）	授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通 (共通領域)
担当教員名	金高 宏文・研究科教務委員会			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	－	受け入れ人数	2-3
授業の概要 及び達成目標	本演習・実習は、修士課程の学生を対象とし、「国民のニーズに応じた適切なスポーツ指導指導やプログラム開発及びマネジメント、トップアスリートに対する科学的なトレーニング指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として中核的な役割を担う人材を養成する」ために、大学内で身につけた知識や指導・研究スキルを活用し、大学外で実際に指導、研究、実務の実習を行うものである。産業界（研究機構を含む）と連携するものは「インターンシップ型」の実習では、大学外で実際に研究・開発機関等で研究・開発補助や研究・開発支援を行う。研究・開発機関での研究・開発補助や研究・開発支援の実習を通して、研究・開発機関等のニーズに対応した、研究・開発等を行えることを目標とする。 本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先での活動が中心になる。修得できる単位は最大4単位とし、その場合の実習は90時間以上とする。				
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業（演習・実習）への取り組み状況（60％） ☒ レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。				
成績評価の基準	・事前学習、大学と実習先との往還で行う演習活動、実習活動、事後活動を総合的に判断して評価する。 ・実習先での実習者の資質・能力も評価も加える。				
テキスト、教材 参 考 書	適宜、提示する。				
履修条件・ 関連科目	インターンシップ型の演習・実習する研究・開発機関等で求められる資質・能力の要件があると研究指導教員が認める学生であること。		備考(教員メッセージ含む)	インターンシップ型の演習・実習する受入先は、原則、国内の研究・開発機関等とする。	
オフィス・アワー					
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	オリエンテーション コープ実習の目的・意義・内容		授業の復習と演習・実習計画等の立案(60分)	
2	〃	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
3	〃	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
4	〃	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
5	〃	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
6	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修 ※演習・実習の期間 ・2単位の場合は、実習60コマ（60時間：2週間） ・4単位の場合は、実習90コマ（90時間：3週間）		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
7	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
8	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
9	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
10	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
11	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
12	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
13	〃	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
14	〃	インターンシップ型の実習の取組発表		発表の準備(60-120分)	
15	〃	インターンシップ型の実習の取組の振り返り 総括		発表の振り返り(60分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究 (321A21300)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	廣津 匡隆			補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	スポーツ外傷・障害（傷害）からの復帰時のリハビリテーションは、医療機関で主として行われるメディカル・リハビリテーションと、実際のスポーツ現場を舞台とするアスレティック・リハビリテーションとに大別される。後者について代表的なスポーツ傷害を中心に取り扱い、実際に予防・復帰・再発防止などを行う際のポイントについて解説し、考究する。さらに、近年競技人口を増している中高年健康維持スポーツ、身体障がい者スポーツなどに関しても考究する（双方向型）。 なお、本授業では、上記のスポーツ・リハビリテーション方法などにおける理論的事項の熟知をめざす。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	提出されたレポート（必須）の内容を評価する。出席・授業への取組み状況を、適時に判定する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書…「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」小出清一ら編集（南江堂） 「車椅子マラソン－医・科学的研究と実践指導－」赤嶺卓哉他著（不昧堂）、「スポーツリハビリテーションの臨床」青木治人他著（メディカル・サイエンス・インターナショナル）					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	廣津：水曜日10時30分～11時30分 研究棟3階 304研究室（要予約）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	廣津 匡隆	スポーツ・リハビリテーション医科学における整形外科的疾患の予防			整形外科的疾患予防についての資料を読む。（1時間）	
2	〃	スポーツ・リハビリテーション医科学における整形外科的疾患に対する運動療法			整形外科的疾患に対する運動療法についての資料を読む。（1時間）	
3	〃	スポーツ・リハビリテーション医科学における整形外科的疾患からのスポーツ現場復帰			整形外科的疾患からのスポーツ現場復帰についての資料を読む。（1時間）	
4	〃	スポーツ・リハビリテーション医科学における整形外科的疾患に対する再発防止対策（テーピング、PNFトレーニング、スポーツ・マッサージなどを含む）			整形外科的疾患に対する再発防止対策についての資料を読む。（1時間）	
5	〃	腰痛・関節疾患症例に対する運動処方法			腰痛・関節疾患の運動処方法についての資料を読む。（1時間）	
6	〃	中高年・女性・小児における各特性と運動処方法			中高年・女性・小児の各特性・運動処方法についての資料を読む。（1時間）	
7	〃	骨粗鬆症例・リウマチ関節症例における運動処方法			骨粗鬆症例・リウマチ関節症例の運動処方法についての資料を読む。（1時間）	
8	〃	障がい者スポーツ（留意点、指導方法など）			障がい者スポーツについての資料を読む。（1時間）	
9	〃	運動と骨代謝（基礎的研究成果、臨床応用研究など）			運動・骨代謝についての資料を読む。（1時間）	
10	〃	スポーツ傷害後のリハビリテーション（頭・頸部）			リハビリテーション（頭・頸部）についての資料を読む。（1時間）	
11	〃	スポーツ傷害後のリハビリテーション（上肢）			リハビリテーション（上肢）についての資料を読む。（1時間）	
12	〃	スポーツ傷害後のリハビリテーション（体幹）			リハビリテーション（体幹）についての資料を読む。（1時間）	
13	〃	スポーツ傷害後のリハビリテーション（腰部・股関節）			リハビリテーション（腰部・股関節）についての資料を読む。（1時間）	
14	〃	スポーツ傷害後のリハビリテーション（下肢）			リハビリテーション（下肢）についての資料を読む、スポーツ・リハビリテーション医科学に関するレポート作成の準備をする。（2時間）	
15	〃	本授業の総括とレポート			スポーツ・リハビリテーション医科学に関するレポートを作成し提出する。（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究演習 (324B22301)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	廣津 匡隆				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	実際のスポーツ現場を舞台とするアスレティック・リハビリテーションにおける、代表的なスポーツ外傷・障害を中心に取り扱い、考究する。実際に予防・復帰・再発防止などを行う際の重要事項について解説し、演習を行う。また、中高年健康維持スポーツ、身体障がい者スポーツ、骨関節疾患症例へのリハビリテーション処方方法などに関しても考究し、演習を行う（双方向型）。さらに、上記の演習項目に関する題材を、論文化するための手法・技法の習熟をもめざす。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	提出されたレポート（必須）の内容を評価する。出席・授業への取り組み状況を、適時に判定する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書…「スポーツ整形外科学」松本秀男他著（文光堂）、「身体障害者スポーツ」Guttmann,L.著（医歯薬出版）、「スポーツリハビリテーションの臨床」青木治人他著（メディカル・サイエンス・インターナショナル）					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	廣津：水曜日 10時30分～11時30分 研究棟3階 304研究室（要予約）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	廣津 匡隆	スポーツによる膝靱帯損傷と治療			スポーツによる膝靱帯損傷と治療についての資料を読む。（1時間）	
2	〃	スポーツによる半月板損傷と治療			スポーツによる半月板損傷と治療についての資料を読む。（1時間）	
3	〃	オーバーユースによる膝障害の特徴と治療			オーバーユースによる膝障害の特徴と治療についての資料を読む。（1時間）	
4	〃	変形性膝関節症に対する治療			変形性膝関節症に対する治療についての資料を読む。（1時間）	
5	〃	スポーツにおける足関節・足部疾患の特徴と治療			スポーツにおける足関節・足部疾患の特徴と治療についての資料を読む。（1時間）	
6	〃	投球障害肩・肘の特徴とリハビリテーション			投球障害肩・肘の特徴とリハビリテーションについての資料を読む。（1時間）	
7	〃	長距離ランナーにおける下肢外傷について			長距離ランナーにおける下肢外傷についての資料を読む。（1時間）	
8	〃	スポーツにおける股関節周囲の痛みの特徴と治療			スポーツにおける股関節周囲の痛みの特徴と治療についての資料を読む。（1時間）	
9	〃	スポーツに伴う腰椎疾患の治療			スポーツに伴う腰椎疾患の治療についての資料を読む。（1時間）	
10	〃	バスケットボールに特徴的な外傷と予防・治療			バスケットボールに特徴的な外傷と予防・治療についての資料を読む。（1時間）	
11	〃	サッカーに特徴的な外傷と予防・治療			サッカーに特徴的な外傷と予防・治療についての資料を読む。（1時間）	
12	〃	車椅子マラソンー医・科学的研究と実践指導ー			車椅子マラソンについての資料を読む。（1時間）	
13	〃	身体障がい者車椅子バスケットボールにおける運動の効果ー健康者スポーツとの比較を含めてー			身体障がい者車椅子バスケットボールについての資料を読む。（1時間）	
14	〃	女性アスリートのスポーツ障害について			女性アスリートのスポーツ障害についての資料を読む。 スポーツ・リハビリテーション医科学に関するレポート作成準備をする（2時間）	
15	〃	中高年アスリートのスポーツ障害について 本授業の総括とレポート			中高年アスリートのスポーツ障害についての資料を読む。 スポーツ・リハビリテーション医科学に関するレポートを作成し提出する（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特殊研究 (321A2-1302)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	中垣内 真樹・沼尾 成晴				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	一	受け入れ人数	一
授業の概要 及び達成目標	ヒトは様々な生理的環境の中でダイナミックに適応し、心身の調整を図り、生命を維持している。現代社会は高齢人口の増加とともに同時にライフパンが長くなり、いかに長期に健康や機能を維持するかという大きな課題がある。加齢や非活動的なライフスタイルは心身の状態に大きくマイナスに作用するとみられているが、身体に対する内外の環境による変化や影響を理解するとともに長期にダイナミックに適応して高い機能を維持する上で運動やスポーツがその手段として利用できることが期待されている。関連する先行研究を学び、課題や問題点を認識するとともに新しい研究や体育学研究のあり方を考究する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ ％） ■授業への取組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	学習内容のプレゼンテーションとディスカッションを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜必要に応じて配布又は指示する。 参考書：「運動処方指針 運動負荷試験と運動プログラム 原書第8版」日本体力医学会体科学編集委員会監訳、南江堂、2011年、3850円）					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時 中垣内：研究棟4階 407研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中垣内 真樹 沼尾 成晴	オリエンテーション			文献の予習（1時間）	
2	〃	不活動に伴う身体の変化			文献の予習・復習（1時間）	
3	〃	加齢による機能の変化－呼吸循環機能			文献の予習・復習（1時間）	
4	〃	加齢による機能の変化－筋機能			文献の予習・復習（1時間）	
5	〃	加齢による機能の変化－バランス、柔軟性			文献の予習・復習（1時間）	
6	〃	ExerciseとPhysical activity			文献の予習・復習（1時間）	
7	〃	身体運動による生理的効果－呼吸循環機能			文献の予習・復習（1時間）	
8	〃	身体運動による生理的効果－筋機能			文献の予習・復習（1時間）	
9	〃	元気高齢者の体力水準と運動効果			文献の予習・復習（1時間）	
10	〃	地域型運動の有効性、運動の場の選択			文献の予習・復習（1時間）	
11	〃	虚弱者支援のための運動方法			文献の予習・復習（1時間）	
12	〃	Physical Activity向上のための工夫			文献の予習・復習（1時間）	
13	〃	自立度評価のための客観的指標作成			文献の予習・復習（1時間）	
14	〃	転倒予防を目指す運動のあり方について			文献の予習・復習（1時間）	
15	〃	Exerciseの変遷とこれからの展開			文献の予習・復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特殊研究演習 (324B2-2303)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	中垣内 真樹・沼尾 成晴				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	ヒトは様々な環境の中でダイナミックに適応し、心身の調整を図り、生命を維持している。現代社会は高齢人口の増加とともに同時にライフスパンが長くなり、いかに長期に健康や機能を維持するかという大きな課題がある。加齢や非活動的なライフスタイルは心身の状態に大きくマイナスに作用するとみられているが、身体に対する内外の環境による変化や影響を理解するとともに長期にダイナミックに適応して高い機能を維持する上で運動やスポーツがその手段として利用できることが期待されている。関連する先行研究を学び、課題や問題点を認識するとともに新しい研究方法や体育学研究に関連する測定評価分析法を学ぶ。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（ ％） ☒ 授業への取り組み状況（50％） ☒ レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	学習内容のプレゼンテーションとディスカッションを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜必要に応じて配布又は指示する。 参考書：「運動処方の指針 運動負荷試験と運動プログラム 原書第8版」日本体力医学会会体力科学編集委員会監訳、南江堂、2011年、3850円）					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時 中垣内：研究棟4階 407研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中垣内 真樹 沼尾 成晴	オリエンテーション			文献の予習（1時間）	
2	〃	不活動に伴う身体の変化－文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
3	〃	加齢による機能の変化－文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
4	〃	生理機能、身体活動量の季節変動－文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
5	〃	老化に関する文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
6	〃	ExerciseとPhysical activity－文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
7	〃	身体運動による生理的効果－文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
8	〃	身体運動による生理的効果－文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
9	〃	高齢競技者の体力水準と運動効果－文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
10	〃	地域型運動の有効性－文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
11	〃	虚弱者支援のための運動方法－文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
12	〃	Physical Activity向上のための工夫－文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
13	〃	Physical Activity向上のための工夫－文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
14	〃	転倒予防を目指す運動－文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
15	〃	単一運動と複合運動－文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動処方論特殊研究 (321A2-1304)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (※ 総合科学)
担当教員名	藤田 英二				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	国内外の学術誌に掲載された運動処方および健康・体力の増進に関連したトレーニングに関する文献を精読し、それぞれの運動が形態や身体機能に及ぼす効果について論究する。授業では論文を構成する各要素（緒言、方法、結果、考察、結論）の内容についての発表および議論を通して、研究成果を公表する能力の向上をめざす。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ %）■授業への取り組み状況（40%）■レポート等の提出状況（60%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さ等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されている運動処方およびトレーニング科学に関連する論文					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	随時：まずはメールで相談を（fujita@nifs-k.ac.jp）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	藤田 英二	オリエンテーション				
2	〃	身体組成と負のエネルギー出納バランス			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
3	〃	身体組成と持久性トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
4	〃	身体組成と筋力・パワートレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
5	〃	筋力・筋サイズと局所トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
6	〃	筋力・筋サイズと全身トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
7	〃	呼吸循環機能と持久性トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
8	〃	持久性と筋力の複合トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
9	〃	様々な対象に対するトレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
10	〃	不活動が形態と身体機能に及ぼす影響			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
11	〃	スポーツパフォーマンスと持久性トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
12	〃	スポーツパフォーマンスと筋力トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
13	〃	効果の測定内容とデータの分析			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
14	〃	プレゼンテーション&ディスカッション			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
15	〃	まとめ			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
16	〃	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動処方論特殊研究演習 (324B2-2305)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (※ -7総合科学)
担当教員名	藤田 英二				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	運動処方に関する従来の研究報告に基づき、運動処方の研究領域において採用されている実験デザイン、データの取得と分析の方法およびその解釈について、プレゼンテーションおよびディスカッションを繰り返しながら、研究成果を公表する能力の向上をめざす。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ %） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さを総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されている運動処方およびトレーニング科学に関連する論文					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時：まずはメールにて相談を（fujita@nifs-k.ac.jp）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	藤田 英二	オリエンテーション				
2	〃	実験デザイン①不活動の影響			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
3	〃	実験デザイン②ウェイトコントロール			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
4	〃	実験デザイン③呼吸循環機能の運動処方			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
5	〃	実験デザイン④筋機能・運動機能の運動処方			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
6	〃	実験デザイン⑤柔軟性の運動処方			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
7	〃	データの取得・分析①形態・身体組成			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
8	〃	データの取得・分析②呼吸・循環機能			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
9	〃	データの取得・分析③筋機能・運動機能			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
10	〃	データの取得・分析④柔軟性			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
11	〃	プレゼンテーション&ディスカッション①			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
12	〃	プレゼンテーション&ディスカッション②			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
13	〃	データのまとめと論文の構成①			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
14	〃	データのまとめと論文の構成②			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
15	〃	データのまとめと論文の構成③			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
16	〃	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特殊研究 (321A21306)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高井 洋平・山本 正嘉			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツ競技力の向上、身体能力の改善を目的とするトレーニングに関して、体力と技術の面から科学的基礎および応用について論ずる。身体運動の遂行の諸条件について、有酸素・無酸素性パワーの向上、神経系による調節の仕組みなどについて運動生理学的に理解する。特に各年齢における最適な運動刺激、形態や身体機能に影響を及ぼすトレーニング効果、また合理的に運動の技術を獲得するために運動分析の手法（筋電図、筋出力、映像等）について考究する。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60%） ■レポート等の提出状況（40%） を総合的に評価する。				
成績評価の基準	発表時の内容（Powerpointでのpresentationの評価、質疑に対する受け答え）、座長担当の評価を総合的に評価する。また討論への積極的な参加態度を重視する。				
テキスト、教材 参 考 書	・福永哲夫・山本正嘉編著『体育・スポーツにおける実践研究の考え方と論文の書き方』市村出版 ・山本正嘉 著「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学」（市村出版） ・国内外の研究論文を適宜講読する。				
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 (山本：スポーツトレーニング教育研究センター2階・センター長室、yamamoto@nifsk.ac.jp) (高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、ytakai@nifsk.ac.jp)				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高井 洋平	神経支配と運動制御のトレーニング		授業の予習と復習（1時間）	
2	〃	骨格筋とトレーニング（1）		授業の予習と復習（1時間）	
3	〃	骨格筋とトレーニング（2）		授業の予習と復習（1時間）	
4	〃	最大筋力向上要因と筋力トレーニング（1）		授業の予習と復習（1時間）	
5	〃	最大筋力向上要因と筋力トレーニング（2）		授業の予習と復習（1時間）	
6	〃	エネルギー代謝とトレーニング		授業の予習と復習（1時間）	
7	〃	呼吸循環系機能とトレーニング		授業の予習と復習（1時間）	
8	山本 正嘉	有酸素性トレーニングの原理と実際（1）		授業の予習と復習（1時間）	
9	〃	有酸素性トレーニングの原理と実際（2）		授業の予習と復習（1時間）	
10	〃	無酸素性トレーニングの原理と実際（1）		授業の予習と復習（1時間）	
11	〃	無酸素性トレーニングの原理と実際（2）		授業の予習と復習（1時間）	
12	〃	競技選手のトレーニングの実際		授業の予習と復習（1時間）	
13	〃	新しいトレーニング法の開発		授業の予習と復習（1時間）	
14	〃	青少年期における発育発達トレーニング		授業の予習と復習（1時間）	
15	〃	高齢者のトレーニング		授業の予習と復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特殊研究演習 (324B22307)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高井 洋平・山本 正嘉				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	各種スポーツの競技力は、これまで限界が無いかのように伸び続けてきたが、トップアスリートの能力は確実に人間の許容限界に迫りつつある。このため今日では、身体を壊すようなリスクを最小限に抑え、かつ効果を最大限に引き出すようなトレーニング法を、科学的な背景に基づいて確立する必要性に迫られている。一方、一般人においては、子供の体力の低下、高齢者の増加による健康の維持・増進といった問題が深刻になっている。本演習では、トップアスリートが行う極限的な体力トレーニングから、一般人（子供から高齢者まで）が行う健康な身体づくりのトレーニングまでを含めて、その最前線の知見を学ぶとともに、よりよいトレーニングの創出について考える。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（60％） ☒ レポート等の提出状況（40％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	発表時の内容（Powerpointでのpresentationの評価、質疑に対する受け答え）、座長担当の評価を総合的に評価する。また討論への積極的な参加態度を重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の専門誌に掲載された研究論文や解説を随時講読する。 ・山本正嘉 著「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学」（市村出版） ・その他 『筋の科学事典』（朝倉書店） 『人間の許容限界事典』（朝倉書店、2005）など					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	英語の論文を多数講読するので、十分な英語読解力が必要である。	
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 (山本：スポーツトレーニング教育研究センター2階・センター長室、yamamoto@nifsk.ac.jp) (高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、ytakai@nifsk.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高井 洋平	骨格筋とトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
2	〃	神経支配と運動制御のトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
3	〃	青少年期における発育発達とトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
4	〃	男性と女性のトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
5	〃	高齢者におけるトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
6	〃	人間の生理的な許容限界とトレーニングの可能性			授業の予習と復習（1時間）	
7	〃	無酸素性作業能力の限界要因とトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
8	〃	有酸素性作業能力の限界要因とトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
9	山本 正嘉	特殊環境を利用したトレーニング（1） 高所（低酸素）トレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
10	〃	特殊環境を利用したトレーニング（2） 高酸素トレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
11	〃	トレーニング科学の歴史（1） 世界における発展			授業の予習と復習（1時間）	
12	〃	トレーニング科学の歴史（1） 世界における発展			授業の予習と復習（1時間）	
13	〃	一流スポーツ選手のトレーニングサポートの現状と課題（1）			授業の予習と復習（1時間）	
14	〃	一流スポーツ選手のトレーニングサポートの現状と課題（2）			授業の予習と復習（1時間）	
15	〃	一般人（子供から高齢者）のためのトレーニング開発の現状と未来			授業の予習と復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特殊研究 (321A11308)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高橋 仁大・中村 夏実・竹中 健太郎				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	国内外の雑誌に掲載されているコーチングに関する文献を概観し、コーチング学のトレンドを理解する。また、文献講読を通じてコーチングの汎用的原理・原則や種目特性に基づいたコーチングの原理・原則を理解し、実践現場での応用可能性についてディスカッションする。コーチング理論は、実践現場での試行錯誤から産み出されるものでもあることから、実践現場での事例を基にした実践的なコーチング手法についてもディスカッションを行い、自身のコーチング理論を構築することを目指す。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	毎回講義の話題に対するディスカッションを行い、その良否を得点化する。また、各自のプレゼンテーションのできばえ（論理性・話題性・図表の利用能力・聞きやすさ・質疑応答能力）を得点化する。					
テキスト、教材 参 考 書	資料等は適時配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)	競技経験のある者またはコーチングの現場に立った経験のある者で、かつ修士レベルまでに科学的な思考を身につけている者の受講を希望する。	
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋（研究棟8階809教員研究室またはスポーツパフォーマンス研究センター） 中村（研究棟7階710教員研究室または海洋スポーツセンター） 竹中（研究棟5階507教員研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高橋 仁大	コーチング実践の歴史および現状とスポーツ科学の役割 ～ bridge the gap の理解 ～			講義内容の予習と復習（1時間）	
2	〃	諸科学分野の学領域および方法論の理解とコーチング学			講義内容の予習と復習（1時間）	
3	〃	スポーツ科学の理論体系とコーチング学の位置づけ			講義内容の予習と復習（1時間）	
4	〃	プレゼンテーション－1－			講義内容の予習と復習（1時間）	
5	〃	実践的な問題解決のための思考法に関する理論・方法論			講義内容の予習と復習（1時間）	
6	中村 夏実	コーチング学研究の現状			講義内容の予習と復習（1時間）	
7	〃	コーチング学研究の方法とその可能性			講義内容の予習と復習（1時間）	
8	〃	コーチング学研究成果の有用性と価値			講義内容の予習と復習（1時間）	
9	〃	コーチング学研究論文の書き方			講義内容の予習と復習（1時間）	
10	〃	コーチング学研究成果の発表および取り扱い方			講義内容の予習と復習（1時間）	
11	竹中 健太郎	プレゼンテーション－2－			講義内容の予習と復習（1時間）	
12	〃	コーチング学研究のプロポーザルの作成例 1			講義内容の予習と復習（1時間）	
13	〃	コーチング学研究のプロポーザルの作成例 2			講義内容の予習と復習（1時間）	
14	〃	コーチング学研究のプロポーザルの作成例 3			講義内容の予習と復習（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション－3－			講義内容の予習と復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特殊研究演習 (324B1-2309)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高橋 仁大・中村 夏実・竹中 健太郎				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	国内外の雑誌に掲載されているコーチング学に関する論文を概観し、具体的な論文の傾向について理解する。さらに、コーチング学特殊研究による講義内容を踏まえて、仮説創出型研究の立場からコーチングに関する研究の進め方や方法について演習する。さらに、コーチング学研究の問題点や可能性について議論するとともに、実践現場でのコーチング事例を基にコーチング学研究やスポーツパフォーマンス研究への論文投稿を目指す。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	毎回の話題に対するディスカッションを行い、その良否を得点化する。また、各自のプレゼンテーションのできばえ（論理性・話題性・図表の利用能力・聞きやすさ・質疑応答能力）を得点化する。					
テキスト、教材 参 考 書	資料等は適時配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)	競技経験のある者またはコーチングの現場に立った経験のある者で、かつ修士レベルまでに科学的な思考を身につけている者の受講を希望する。		
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋（研究棟8階809教員研究室またはスポーツパフォーマンス研究センター） 中村（研究棟7階710教員研究室または海洋スポーツセンター） 竹中（研究棟5階507教員研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高橋 仁大	コーチング学研究に関連する学術論文および著書の検索と整理			講義内容の予習と復習（1時間）	
2	〃	コーチング学研究に関連する学術論文および著書の位置づけ			講義内容の予習と復習（1時間）	
3	〃	コーチング学研究に関連する学術論文および著書の紹介と講読 1			講義内容の予習と復習（1時間）	
4	〃	コーチング学研究に関連する学術論文および著書の紹介と講読 2			講義内容の予習と復習（1時間）	
5	〃	コーチング学研究に関連する学術論文および著書の紹介と講読 3			講義内容の予習と復習（1時間）	
6	中村 夏実	プレゼンテーション－1－			講義内容の予習と復習（1時間）	
7	〃	コーチング学研究に関する論文の作成 1			講義内容の予習と復習（1時間）	
8	〃	コーチング学研究に関する論文の作成 2			講義内容の予習と復習（1時間）	
9	〃	コーチング学研究に関する論文の作成 3			講義内容の予習と復習（1時間）	
10	〃	プレゼンテーション－2－			講義内容の予習と復習（1時間）	
11	竹中 健太郎	コーチング学研究に関する論文の作成 4			講義内容の予習と復習（1時間）	
12	〃	コーチング学研究に関する論文の作成 5			講義内容の予習と復習（1時間）	
13	〃	コーチング学研究に関する論文の作成 6			講義内容の予習と復習（1時間）	
14	〃	プレゼンテーション－3－			講義内容の予習と復習（1時間）	
15	〃	総合討論			講義内容の予習と復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	アスリート・トレーニング科学特殊研究演習【JISS】 (324B2-2312)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	星川 雅子・横澤 俊治				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	アスリートは、目標を達成するために日々トレーニングに励んでいる。そのアスリート間にある僅差のトレーニング効果を測定・評価するためには、あるいはその類い稀な体力あるいは技術をより向上させるためには、新たな知見を創出しなければならない。本講義では、これまでのトレーニングに関する研究成果を理解・検証するとともに、創出のために自らの課題を見出して演習を行う。課題を解決するための研究方法を修得することを達成目標とする。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	講義の内容と執筆計画論文の内容との関連をレポートしてもらい、その練成度を基準とする。					
テキスト、教材 参 考 書	Physiological Test for Elite Athletes. Australian Sports Commission, Human Kinetics ACSM's Advanced Exercise Physiology, American College of Sports Medicine, Lippincott Williams & Wilkins					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	星川 雅子 横澤 俊治	アスリート・トレーニング科学研究に関する学術論文の抄読と討論 1			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
2	〃	アスリート・トレーニング科学研究に関する学術論文の抄読と討論 2			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	アスリート・トレーニング科学研究に関する学術論文の抄読と討論 3			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	アスリート・トレーニング科学研究に関する学術論文の抄読と討論 4			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
5	〃	アスリート・トレーニング科学研究に関する学術論文の抄読と討論 5			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 1			資料等の作成（1時間）	
7	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 2			資料等の作成（1時間）	
8	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 3			資料等の作成（1時間）	
9	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 4			資料等の作成（1時間）	
10	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 5			資料等の作成（1時間）	
11	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 6			資料等の作成（1時間）	
12	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 7			資料等の作成（1時間）	
13	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 8			資料等の作成（1時間）	
14	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 9			資料等の作成（1時間）	
15	〃	総合討論			レポート作成（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特殊研究 A 【KR】 (321A2-1315)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	井福 裕俊・坂本 将基・小澤 雄二				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	スポーツや運動を身体教育として捉え、かつそれらの分野に関する研究の視点を得るためには、スポーツや運動に対する学際的な理解が重要となる。 本授業では、運動・コーチ学、随意運動制御の基礎、運動時の循環調節などについて幅広く理解を深めるとともに、それらと身体教育の関連について検討していく。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート課題の成績と授業への取り組みから総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考資料等は事前に配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	井福 裕俊 坂本 将基 小澤 雄二	オリエンテーション				
2	小澤 雄二	運動学・コーチ学の視点（1）			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
3	〃	運動学・コーチ学の視点（2）			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
4	〃	運動学・コーチ学の視点（3）			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
5	〃	運動学・コーチ学の視点（4）			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
6	坂本 将基	随意運動制御の基礎（1）脊髄			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
7	〃	随意運動制御の基礎（2）小脳・大脳基底核			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
8	〃	随意運動制御の基礎（3）骨格筋			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
9	〃	随意運動制御の基礎（4）大脳皮質			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
10	〃	随意運動制御の基礎（5）運動学習			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
11	井福 裕俊	運動時の循環調節（1）心臓			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
12	〃	運動時の循環調節（2）血圧			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
13	〃	運動時の循環調節（3）微小循環			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
14	〃	運動時の循環調節（4）運動昇圧反射			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
15	井福 裕俊 坂本 将基 小澤 雄二	総合討論				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特殊研究演習 A 【KR】 (324B2-2316)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	井福 裕俊・坂本 将基・小澤 雄二				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	一	受け入れ人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	身体教育特殊研究 A の内容をふまえて、スポーツや運動を身体教育として捉え、かつそれらの分野に関する研究の視点をを得るために、関連する著書や研究論文を抄読し、身体教育のためのスポーツや運動に応用できる知識と技術を身につける。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（60％） ☒ レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート課題の成績と授業への取り組みから総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	論文等は事前に配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	井福 裕俊 坂本 将基 小澤 雄二	オリエンテーション				
2	小澤 雄二	運動学・コーチ学演習（1）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
3	〃	運動学・コーチ学演習（2）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
4	〃	運動学・コーチ学演習（3）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
5	〃	運動学・コーチ学演習（4）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
6	坂本 将基	随意運動制御演習（1）脊髄反射			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
7	〃	随意運動制御演習（2）平衡機能と眼球運動			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
8	〃	随意運動制御演習（3）筋力と筋疲労			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
9	〃	随意運動制御演習（4）運動野と体性感覚野			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
10	〃	随意運動制御演習（5）到達運動			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
11	井福 裕俊	運動負荷時の循環応答（演習）（1）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
12	〃	運動負荷時の循環応答（演習）（2）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
13	〃	運動負荷時の循環応答（演習）（3）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
14	〃	運動負荷時の循環応答（演習）（4）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
15	井福 裕俊 坂本 将基 小澤 雄二	総合討論				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特殊研究B【KR】 (321A2-1317)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	飯干 明・塩瀬 圭佑				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	塩瀬：健康の保持増進における運動・スポーツの重要性を検討するために、運動と代謝・身体組成について理解を深める。また両者の関連に及ぼす栄養の影響についても扱う。 飯干：健康づくりのために各種の身体運動を行う場合には、身体の持つ性質である身体性（エンボディメント）について理解しておくことが重要になる。ここでは、身体のとらえ方や身体性について理解を深めるとともに、身体性と健康づくりとの関係について検討していく。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	塩瀬：運動が代謝と身体組成もたらす変化とそのメカニズムについて理解している。また、栄養状態と運動効果の関連について理解している。 飯干：様々な身体のとらえ方があることを理解するとともに身体性について理解できている。身体性をふまえた健康づくりについて理解できている。					
テキスト、教材 参 考 書	塩瀬：必要に応じて紹介する。 飯干：1回目のオリエンテーションで、参考書を紹介する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	塩瀬 圭佑	運動と代謝・身体組成 インTRODakション			復習0.5時間、予習1時間	
2	〃	運動と代謝① エネルギー代謝の評価			復習0.5時間、予習1時間	
3	〃	運動と代謝② トレーニングと代謝適応			復習0.5時間、予習1時間	
4	〃	運動と代謝③ 栄養による影響			復習0.5時間、予習1時間	
5	〃	運動と身体組成① 身体組成の評価			復習0.5時間、予習1時間	
6	〃	運動と身体組成② トレーニングと身体組成			復習0.5時間、予習1時間	
7	〃	運動と身体組成③ 栄養による影響			復習0.5時間、予習1時間	
8	〃	運動と健康 ― 代謝・身体組成からの検討 ―			レポート3時間	
9	飯干 明	身体について①			復習0.5時間、予習1時間	
10	〃	身体について②			復習0.5時間、予習1時間	
11	〃	身体性について①			復習0.5時間、予習1時間	
12	〃	身体性について②			復習0.5時間、予習1時間	
13	〃	身体性について③			復習0.5時間、予習1時間	
14	〃	身体性をふまえた健康づくりについて①			復習0.5時間、予習1時間	
15	〃	身体性をふまえた健康づくりについて②			復習0.5時間、予習1時間	
16	〃	身体性をふまえた健康づくりについて③			レポート3時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特殊研究演習 B 【KR】 (324B2-2318)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (※7総合科学)
担当教員名	飯干 明・塩瀬 圭佑				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	塩瀬：身体教育特殊研究Bの学習内容をふまえて、運動と代謝・身体組成、またはこれらに及ぼす栄養の影響に関する著書や研究論文を抄読し、健康づくりに応用できる知識と技能を身につける。 飯干：身体教育特殊研究Bの学習内容をふまえて、身体性と健康に関する著書や研究論文を抄読し、健康づくりのための身体運動に応用できる知識と技能を身につける。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	塩瀬：運動と代謝・身体組成、またはこれらに及ぼす栄養状態の影響に関する著書や研究論文を抄読し、内容を理解できている。 飯干：身体性と健康に関する著書や研究論文を抄読し内容を理解できている。 身体性に着目し、健康づくりのための身体運動に応用できる知識と技能を身につけることができている。					
テキスト、教材 参 考 書	塩瀬：必要に応じて紹介する。 飯干：必要に応じて紹介する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	塩瀬 圭佑	運動と代謝に関する著書・論文を抄読する			復習0.5時間、予習1時間	
2	〃	運動と代謝に関する著書・論文を抄読する			復習0.5時間、予習1時間	
3	〃	運動と代謝に関する著書・論文を抄読する			復習0.5時間、予習1時間	
4	〃	運動と代謝に関する著書・論文を抄読する			復習0.5時間、予習1時間	
5	〃	運動と身体組成に関する著書・論文を抄読する			復習0.5時間、予習1時間	
6	〃	運動と身体組成に関する著書・論文を抄読する			復習0.5時間、予習1時間	
7	〃	運動と身体組成に関する著書・論文を抄読する			復習0.5時間、予習1時間	
8	〃	運動と代謝・身体組成についての討論			レポート3時間	
9	飯干 明	身体性と健康に関する著書・論文を抄読する			復習0.5時間、予習1時間	
10	〃	身体性と健康に関する著書・論文を抄読する			復習0.5時間、予習1時間	
11	〃	身体性と健康に関する著書・論文を抄読する			復習0.5時間、予習1時間	
12	〃	身体性と健康に関する著書・論文を抄読する			復習0.5時間、予習1時間	
13	〃	身体性と健康に関する著書・論文を抄読する			復習0.5時間、予習1時間	
14	〃	身体性と健康に関する著書・論文を抄読する			復習0.5時間、予習1時間	
15	〃	総括			レポート3時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特殊研究【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高井 洋平・山本 正嘉				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	一	受け入れ人数	一
授業の概要 及び達成目標	国内外の学術誌に掲載されたトレーニング科学領域の文献を精読し形態・身体組成、身体機能や運動機能に及ぼす効果についてトレーニング内容との関連で論究する。また、授業ではトレーニング内容と効果の実態の関係に関する発表および議論を通して、研究成果を公表する能力の向上をめざす。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（ %） ☒ 授業への取り組み状況（50%） ☒ レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さ等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されているトレーニング科学に関連する論文 山本：山本正嘉 著「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学」（市村出版）をテキストとして用いる。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 (山本：スポーツトレーニング教育研究センター2階・センター長室、yamamoto@nifsk.ac.jp) (高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、ytakai@nifsk.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高井 洋平 山本 正嘉	オリエンテーション			資料等の復習および予習（1時間）	
2	〃	トレーニングプログラムと効果の実態①形態・身体組成			資料等の復習および予習（1時間）	
3	〃	トレーニングプログラムと効果の実態②呼吸循環機能			資料等の復習および予習（1時間）	
4	〃	トレーニングプログラムと効果の実態③筋機能			資料等の復習および予習（1時間）	
5	〃	トレーニングプログラムと効果の実態④運動機能			資料等の復習および予習（1時間）	
6	〃	トレーニング計画立案の原理・原則①			資料等の復習および予習（1時間）	
7	〃	トレーニング計画立案の原理・原則②			資料等の復習および予習（1時間）	
8	〃	ピリオダイゼーションの応用①			資料等の復習および予習（1時間）	
9	〃	ピリオダイゼーションの応用②			資料等の復習および予習（1時間）	
10	〃	トレーニング効果の測定と分析①			資料等の復習および予習（1時間）	
11	〃	トレーニング効果の測定と分析②			資料等の復習および予習（1時間）	
12	〃	トレーニング効果の測定と分析③			資料等の復習および予習（1時間）	
13	〃	プレゼンテーション&ディスカッション①			資料等の復習および予習（1時間）	
14	〃	プレゼンテーション&ディスカッション②			資料等の復習および予習（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション&ディスカッション③			資料等の復習および予習（1時間）	
16	〃	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特殊研究演習【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	高井 洋平・山本 正嘉				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	トレーニング科学領域の学術論文に採用されている実験デザイン、データの取得と分析の方法およびその解釈に関するプレゼンテーションおよびディスカッションを通して、研究成果を論文として公表する能力の向上をめざす。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ %） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さ等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されているトレーニング科学に関連する学術論文 山本：山本正嘉 著「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学」（市村出版）をテキストとして用いる。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 (山本：スポーツトレーニング教育研究センター2階・センター長室、yamamoto@nifsk.ac.jp) (高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、ytakai@nifsk.ac.jp)					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高井 洋平 山本 正嘉	オリエンテーション			資料等の復習および予習（1時間）	
2	〃	実験デザインの立案①形態・身体組成のトレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
3	〃	実験デザインの立案②呼吸循環機能のトレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
4	〃	実験デザインの立案③筋機能・柔軟性のトレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
5	〃	実験デザインの立案④運動機能のトレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
6	〃	実験デザインの立案⑤複合トレーニング			資料等の復習および予習（1時間）	
7	〃	データの分析およびまとめ①			資料等の復習および予習（1時間）	
8	〃	データの分析およびまとめ②			資料等の復習および予習（1時間）	
9	〃	データの分析およびまとめ③			資料等の復習および予習（1時間）	
10	〃	論文の構成①緒言			資料等の復習および予習（1時間）	
11	〃	論文の構成②方法			資料等の復習および予習（1時間）	
12	〃	論文の構成③結果			資料等の復習および予習（1時間）	
13	〃	論文の構成④考察・結論			資料等の復習および予習（1時間）	
14	〃	英文abstractの作成①			資料等の復習および予習（1時間）	
15	〃	英文abstractの作成②			資料等の復習および予習（1時間）	
16	〃	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特殊研究【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	永原 隆・金高 宏文・三浦 健				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	2
授業の概要 及び達成目標	国内外のスポーツ科学、スポーツコーチング学、スポーツパフォーマンス研究、トレーニング科学関連の書籍・雑誌に掲載されている文献を抄読し、スポーツの現場において採用されているトレーニングおよびコーチングの理論と実際、トレーニング計画の立案と実際、選手の測定と評価、スポーツパフォーマンス向上に必要な要件等についてコーチング学の観点から理解する。また、コーチング学研究の方法や論文執筆の要点を理解する。なお授業は、講義だけではなく、参加者にテーマ別の先行知見のレジュメの作成、プレゼンテーションを課し、発表およびディスカッション能力の向上を目指す。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	1）授業への取り組み：文献の理解度、プレゼンテーションの準備・質疑応答の仕方、レジュメの内容、ディスカッションへの積極性、コーチング学研究論文の書き方に対する理解度 2）レポート：コーチング学研究に対する理解、内容の論理性 1）および2）に基づき総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	授業時に適宜配布、紹介します。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	メールにて随時受け付けます（三浦：kmiura@nifsk.ac.jp, 永原：nagahara@nifsk.ac.jp, 金高：kintaka@nifsk.ac.jp）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	永原 隆 金高 宏文 三浦 健	オリエンテーション：授業概要、文献検索や要旨の作成、プレゼンテーションに関する説明			授業内容の復習・予習（30分以上）	
2	永原 隆 三浦 健	コーチング学研究に関する書籍・論文を抄読し、コーチング学研究の概要について理解する。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
3	〃	コーチング学研究に関する書籍・論文を抄読し、他研究分野との対比からコーチング学研究について理解する。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
4	〃	コーチング学研究に関する書籍・論文を抄読し、要旨についてプレゼンを行う。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
5	〃	コーチング学研究に関する書籍・論文を抄読し、要旨についてプレゼンを行う。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
6	〃	コーチング学研究に関する書籍・論文を抄読し、コーチング学研究の方法について理解する。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
7	〃	コーチング学研究に関する書籍・論文を抄読し、コーチング学研究の方法について理解する。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
8	〃	コーチング学研究に関する書籍・論文を抄読し、コーチング学研究の方法について理解する。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
9	〃	コーチング学研究に関する書籍・論文を抄読し、コーチング学研究の方法について理解する。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
10	〃	コーチング学研究における結果の示し方について理解する。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
11	〃	コーチング学研究における結果の示し方について理解する。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
12	〃	コーチング学研究における考察について理解する。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
13	〃	コーチング学研究における考察について理解する。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
14	〃	コーチング学研究における考察について理解する。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
15	〃	コーチング学研究における考察について理解する。			授業内容の復習・予習（30分以上）	
16	〃	試験は行わない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特殊研究演習【夜間】	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ総合科学)
担当教員名	永原 隆・金高 宏文・三浦 健			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	国内外のスポーツ科学、スポーツコーチング学、スポーツパフォーマンス研究、トレーニング科学関連の書籍・雑誌に掲載されている文献を抄読し、競技の現場において採用されているトレーニングおよびコーチングの理論と実際について理解する。また、それらの先行知見を参考に、トレーニング方法、コーチング方法を考案すると同時に、その効果を定量的・定性的に確かめる作業を行う。それによって得られたデータを分析し、発表を行うことで、データの総括、ならびにプレゼンテーションおよび討議する能力を高める。また、コーチング学研究論文作成の方法について理解することで、自身のデータに基づいた論文原稿作成を目指す。作成した論文原稿に関して内容、記述法などの観点からディスカッションミーティングを行い、論文作成能力の向上を目指す。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％）を総合的に評価する。				
成績評価の基準	1）授業への取り組み：先行知見の理解度、プレゼンテーションの準備・ディスカッションの積極性、データ採取・分析に対する積極性、論文作成に対する執着心 2）レポート等の提出状況：先行知見に対する理解、視点・展開における論理性・新規性、コーチング学研究論文の完成度				
テキスト、教材 参 考 書	授業時に適宜配布、紹介します。				
履修条件・ 関連科目	コーチング学特殊研究【TSC】を受講していることが望ましい。		備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	メールにて随時受け付けます（三浦：k-miura@nifs-k.ac.jp, 永原：nagahara@nifs-k.ac.jp, 金高：kintaka@nifs-k.ac.jp）				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	永原 隆 金高 宏文 三浦 健	オリエンテーション：授業概要、文献検索や要旨・プレゼンテーション・論文作成に関する説明		授業内容の復習・予習（30分以上）	
2	永原 隆 三浦 健	コーチング学研究の位置づけを理解する。		授業内容の復習・予習（30分以上）	
3	〃	コーチング学に関する研究論文作成のポイントを理解する。		授業内容の復習・予習（30分以上）	
4	〃	コーチング学に関する研究論文作成のポイントを理解する。		授業内容の復習・予習（30分以上）	
5	〃	コーチング学研究に関する書籍・論文を抄読し、要旨をもとにディスカッションを行う。		授業内容の復習・予習（30分以上）	
6	〃	コーチング学研究に関する書籍・論文を抄読し、要旨をもとにディスカッションを行う。		授業内容の復習・予習（30分以上）	
7	〃	コーチング学に関する研究について、テーマを考え内容をまとめる。		授業内容の復習・予習（30分以上）	
8	〃	コーチング学に関する研究について、テーマを考え内容をまとめる。		授業内容の復習・予習（30分以上）	
9	〃	コーチング学に関する研究について、内容をプレゼンする。		授業内容の復習・予習（30分以上）	
10	〃	コーチング学に関する研究について、内容をプレゼンする。		授業内容の復習・予習（30分以上）	
11	〃	コーチング学に関する研究論文を作成し、内容・記述法についてディスカッションを行う。		授業内容の復習・予習（30分以上）	
12	〃	コーチング学に関する研究論文を作成し、内容・記述法についてディスカッションを行う。		授業内容の復習・予習（30分以上）	
13	〃	コーチング学に関する研究論文を作成し、内容・記述法についてディスカッションを行う。		授業内容の復習・予習（30分以上）	
14	〃	コーチング学に関する研究論文を作成し、内容・記述法についてディスカッションを行う。		授業内容の復習・予習（30分以上）	
15	〃	コーチング学に関する研究論文を作成し、内容・記述法についてディスカッションを行う。		授業内容の復習・予習（30分以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ史特殊研究 (322A3-1300)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	山田 理恵				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	各時代、各社会において、スポーツは人間にどのように関わってきたのか、またそれはどのような意味をもつものであったのか、というようにスポーツを歴史的に論じることによって、現代の日本におけるスポーツに関する諸課題を検討し今後のスポーツを展望するうえで有効な資料や手がかりを得ることができる。 本講義では、スポーツ史研究の国際的な動向を分析するとともに、近代スポーツの功罪や伝統スポーツの特質などを考察し、21世紀における望ましいスポーツの在り方を考究する。 それらによって、スポーツの歴史学的研究の理論および専門的知識を身につけることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	随時実施する小レポートや課題の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	スポーツ史研究に関連する国内外の著名な文献を適宜用い、必要に応じて資料を配付する。 参考書：山田理恵『俘虜生活とスポーツー第一次大戦下の日本におけるドイツ兵俘虜の場合ー』（不昧堂出版、1998年） その他の参考書は適宜紹介する。					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ史特殊研究演習」と併せて履修することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	随時（705研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	山田 理恵	スポーツ史研究の目的と意義			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
2	〃	スポーツ史研究の変遷と現状：日本の場合			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
3	〃	スポーツ史研究の変遷と現状：諸外国の場合			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
4	〃	問題意識と研究の進め方			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
5	〃	先行研究の検討			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
6	〃	史料の収集と史料批判			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
7	〃	近代社会の成立とスポーツの展開：ドイツの場合			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
8	〃	近代社会の成立とスポーツの展開：イギリスの場合			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
9	〃	近代オリンピック大会の展開			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
10	〃	近代日本における欧米スポーツの移入と展開			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
11	〃	世界大戦とスポーツ			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
12	〃	伝統スポーツ：日本の場合			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
13	〃	伝統スポーツ：諸外国の場合			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
14	〃	21世紀におけるスポーツの展望			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
15	〃	まとめ			参考書・資料等の予習および復習、まとめ（80分以上）	
16	〃	学期末試験は行わない。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ史特殊研究演習 (325B32301)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	山田 理恵				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツは、各時代、各社会において人間にどのように関わり、どのような意味をもってきたのか、というようにスポーツを歴史的に論じることによって、現代の日本におけるスポーツに関する諸問題を検討し21世紀における望ましいスポーツの在り方を考究するうえでの有効な資料や手がかりを得ることができる。 演習形式で行われる本授業では、スポーツ史研究における現状と課題について考察し、関連する国内外の著名な文献を講読しながら問題の所在や理論的展開について検討するとともに、問題の設定や研究計画、史料の収集と吟味、叙述の進め方など、スポーツ史研究の方法を修得する。 それらによって、スポーツの歴史学的研究の方法論および専門的知識を身につけることができる。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（70%） ☒ レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	随時実施する論述試験や課題の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の著名な文献を適宜用い、必要に応じて資料を配付する。また、参考書は適宜紹介する。					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ史特殊研究」と併せて履修することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	随時（705研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	山田 理恵	スポーツ史研究の現状と課題			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
2	〃	日本のスポーツ史研究に関連する学術書・学術論文の講読・討論①			参考書・資料等の予習および復習（150分以上）	
3	〃	日本のスポーツ史研究に関連する学術書・学術論文の講読・討論②			参考書・資料等の予習および復習（150分以上）	
4	〃	外国のスポーツ史研究に関連する学術書・学術論文の講読・討論①			参考書・資料等の予習および復習（150分以上）	
5	〃	外国のスポーツ史研究に関連する学術書・学術論文の講読・討論②			参考書・資料等の予習および復習（150分以上）	
6	〃	問題の設定と研究計画			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
7	〃	先行研究の検討			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
8	〃	史料の所在と収集の方法			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
9	〃	日本語文献・史料の調査・収集			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
10	〃	外国語文献・史料の調査・収集			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
11	〃	収集史料の整理と吟味			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
12	〃	叙述の方法と展開			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
13	〃	研究実践のプレゼンテーション①			参考書・資料等の予習、プレゼンテーションの準備、復習（240分以上）	
14	〃	研究実践のプレゼンテーション②			参考書・資料等の予習、プレゼンテーションの準備、復習（240分以上）	
15	〃	まとめ			参考書・資料等の予習および復習、まとめ（40分以上）	
16	〃	学期末試験は行わない。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特殊研究 (322A3-1302)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	川西 正志				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	生涯スポーツ科学分野での運動・スポーツの現状と課題について、社会科学的アプローチから社会的・歴史学的現象の解明と研究方法を考究することを目的とする。スポーツと個人・社会・文化の関係を、これまでの社会学・歴史学・文化学的研究動向から概観し、これまでの理論的立場から、諸現象について、より高度な研究視点より、記述、説明、分析する研究能力の習得を目指す。特に、国際研究の視点より日本社会におけるスポーツ社会学研究の独自性について比較考察するとともに、そこでの研究方法論について学ぶ。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（20％） ☒ レポート等の提出状況（80％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	池田勝、守能信次、川西正志他著 「講座スポーツの社会科学シリーズー スポーツ社会学」杏林書院。 川西正志、野川春夫編著「生涯スポーツ実践論」市村出版。 川西正志、野川春夫監訳「ヨーロッパ諸国のスポーツクラブ」市村出版。 授業時配布の資料					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ社会学特殊研究演習」と併せて履修することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	川西 正志	スポーツ社会学の定義と社会的機能			参考書・資料等の復習及び予習（30分）	
2	〃	社会学的研究法ー 問題意識と理論的枠組み、ケーススタディーと社会調査			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	スポーツへの社会化論と遊びの社会文化研究			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	少子高齢化社会とスポーツー 高齢者と青少年スポーツの研究			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
5	〃	グローバリゼーションとローカリゼーションー スポーツ文化と地域社会変容			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	スポーツの国際比較ー 欧米のスポーツ政策とキャンペーン活動			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
7	〃	スポーツの国際比較ー 欧米のクラブ・コミュニティ			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
8	〃	スポーツの社会経済的効果研究			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
9	〃	スポーツ社会学と社会科学的認識			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
10	〃	スポーツ社会学における科学的概念の問題			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
11	〃	スポーツ社会学における「行為」の概念			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
12	〃	大衆社会状況とスポーツの価値規範			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
13	〃	法的・政治的側面から見たスポーツの国際比較			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
14	〃	スポーツ社会学における課題とその展望			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
15	〃	まとめ、評価			授業中の課題についてのレポート作成（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特殊研究演習 (325B3-2303)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	川西 正志				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	スポーツ社会学特殊研究の内容についての演習を行う。これまでの研究成果について概観し、特に、調査研究と文献的研究の諸外国や日本の研究論文から、研究方法論、研究成果と課題をまとめ考究する。研究論文・文献の正確な読解法を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（20%） ■レポート等の提出状況（80%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	Sociology of Sport Journal. International Review for the Sociology of Sport. Journal of Leisure Research. 他随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ社会学特殊研究」と併せて履修することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	川西 正志	スポーツ社会学概念に関した研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（30分）	
2	〃	スポーツ社会学概念に関した研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	スポーツ社会学概念に関した研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	スポーツ社会学概念に関した研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
5	〃	スポーツ社会学研究課題に関した研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	スポーツ社会学研究課題に関した研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
7	〃	研究方法論に関する課題発表・プレゼンテーション			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
8	〃	研究方法論に関する課題発表・プレゼンテーション			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
9	〃	北米におけるスポーツ社会学研究の方法論に関する分析（1）			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
10	〃	北米におけるスポーツ社会学研究の方法論に関する分析（2）			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
11	〃	ヨーロッパ英語圏におけるスポーツ社会学研究の特性分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
12	〃	ヨーロッパ非英語圏におけるスポーツ社会学研究の特性分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
13	〃	日本におけるスポーツ社会学研究の目的と方法			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
14	〃	研究における問題意識と方法に関するプレゼンテーション			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
15	〃	総合討論			授業中の課題についてのレポート作成（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学特殊研究 (322A3-1304)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (健康文化・社会科学)
担当教員名	吉武 裕				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	加齢に伴う体力や生理機能の変化および高齢者の高次生活機能への影響、ならびに高齢者の高次生活機能の保持・向上のための運動指導のあり方などについての講義を行う。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出や授業中の発表を重視する。課題提出、発表をすべて行なった場合80点を与え、それを基準に取組や発表内容で加点、減点を行う。					
テキスト、教材 参 考 書	Shephard R.J: Aging, physical activity, and health, Human Kinetics 折茂肇編集：新老年学, 東京大学出版会 日本老年医学雑誌、体力科学、公衆衛生学雑誌、Med Sci Sports Exerc, J Gerontolなどの論文を資料として使用する					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	吉武 裕	わが国における高齢者の現状			適宜指示する（1時間）	
2	〃	老化の研究（横断的研究と縦断的研究）			適宜指示する（1時間）	
3	〃	生理的老化と病的老化			適宜指示する（1時間）	
4	〃	加齢に伴う生理機能の変化			適宜指示する（1時間）	
5	〃	体力の加齢変化			適宜指示する（1時間）	
6	〃	日常生活動作遂行能力の加齢変化			適宜指示する（1時間）	
7	〃	フレイルのメカニズム			適宜指示する（1時間）	
8	〃	フレイルの予防			適宜指示する（1時間）	
9	〃	抗老化（カロリー制限と身体活動）			適宜指示する（1時間）	
10	〃	高齢者の生活習慣病予防のあり方について			適宜指示する（1時間）	
11	〃	高齢者の高次生活機能の維持に必要な体力水準について			適宜指示する（1時間）	
12	〃	高齢者の高次生活機能の維持に必要な身体活動量水準について			適宜指示する（1時間）	
13	〃	高齢者の運動指導法			適宜指示する（1時間）	
14	〃	高齢者の身体活動測定法			適宜指示する（1時間）	
15	〃	高齢者の体力測定法			適宜指示する（1時間）	
16	〃	まとめ			フレイル予防についてのレポート作成（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学特殊研究演習 (325B3-2305)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (健康文化・社会科学)
担当教員名	吉武 裕				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	加齢に伴う体力や生理機能の変化および高齢者の高次生活機能への影響、ならびに高齢者の高次生活機能の保持・向上のための運動指導のあり方などについての論文を講読する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（50%） ■レポート等の提出状況（50%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出や授業中の発表を重視する。課題提出、発表をすべて行なった場合80点を与え、それを基準に取組や発表内容で加点、減点を行う。					
テキスト、教材 参 考 書	Shephard R.J: Aging, physical activity, and health, Human Kinetics 折茂肇編集：新老年学, 東京大学出版会 日本老年医学雑誌、体力科学、公衆衛生学雑誌、Med Sci Sports Exerc, J Gerontolなどの論文を資料として使用する					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	吉武 裕	加齢に伴う体力の変化に関する文献講読			適宜指示する（1時間）	
2	〃	〃			適宜指示する（1時間）	
3	〃	〃			適宜指示する（1時間）	
4	〃	フレイルのメカニズムについての関する文献講読			適宜指示する（1時間）	
5	〃	〃			適宜指示する（1時間）	
6	〃	抗老化（カロリー制限と身体活動）に関する文献講読			適宜指示する（1時間）	
7	〃	〃			適宜指示する（1時間）	
8	〃	高齢者の高次生活機能の維持に必要な体力水準に関する文献講読			適宜指示する（1時間）	
9	〃	〃			適宜指示する（1時間）	
10	〃	〃			適宜指示する（1時間）	
11	〃	高齢者の体力および高次生活機能の保持に関する文献講読			適宜指示する（1時間）	
12	〃	〃			適宜指示する（1時間）	
13	〃	高齢者の体力測定法			適宜指示する（1時間）	
14	〃	〃			適宜指示する（1時間）	
15	〃	高齢者の運動介入研究についての文献講読			適宜指示する（1時間）	
16	〃	まとめ			高齢者の身体的自立つについてのレポート作成（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ経営学特殊研究 (322A3-1306)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (経済文化・社会科学)	
担当教員名	関 朋昭				補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	—		受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツ経営学は欧米、特にアメリカのスポーツ産業の隆盛に伴って従来の体育管理から独立・発展し、生涯スポーツにみる教員養成以外の体育スポーツ分野での専門家養成を担う役割を今日果たしている。特にスポーツ施設の経営管理的側面の現状と可能性を探り、スポーツ経営学の応用的な考え方を提示するとともに、スポーツ消費行動、マーケティング戦略の構築と展開、スポーツイベントの企画・開催、スポーツ施設・用具・プログラムの開発・運営、さらにスポーツの経済的効用について理解を深める。スポーツの経営における諸課題を解決するために必要な手法や方法論についての科学的な研究も深める。特にゲーム理論や行動経済学の理論を使って考察を行う。						
成績評価の方法	■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%）を総合的に評価する。						
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表も入れて総合評価する。						
テキスト、教材 参 考 書	適時指定する。						
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	関：604教員室						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	関 朋昭	スポーツ経営とその学問体系			先行研究の検討 予習1時間、復習1時間		
2	〃	マーケティングと情報資本主義			予習1時間、復習1時間		
3	〃	ライフスタイル（生涯スポーツ）			予習1時間、復習1時間		
4	〃	スポーツ施設の立地と経営			予習1時間、復習1時間		
5	〃	スポーツ施設におけるプログラムとサービス			予習1時間、復習1時間		
6	〃	スポーツイベントにおける経営			予習1時間、復習1時間		
7	〃	スポーツと地域経済（スポーツ・ツーリズムを含む）			予習1時間、復習1時間		
8	〃	財務・会計と法的側面			予習1時間、復習1時間		
9	〃	スポーツ市場と消費行動			予習1時間、復習1時間		
10	〃	競技（アマチュア）スポーツの経営			予習1時間、復習1時間		
11	〃	プロスポーツの経営			予習1時間、復習1時間		
12	〃	スポーツ用品・用具とライセンス			予習1時間、復習1時間		
13	〃	スポーツ経営とメディア・放送			予習1時間、復習1時間		
14	〃	スポーツ経営における倫理的側面とキャリア			予習1時間、復習1時間		
15	〃	まとめ、評価					

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ経営学特殊研究演習 (325B3-2307)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (経済文化・社会科学)
担当教員名	関 朋昭				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツ経営学特殊研究で学習した理論や内容をもとに、スポーツ経営学全般に関する先進的事例を収集する。特にスポーツ経営に関する研究方法を中心に実際の研究事例を精査し、博士論文の研究方法をあわせて検討を試みる。特にゲーム理論や行動経済学の理論を使って考察を行う。					
成績評価の方法	■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表も入れて総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時紹介する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	関：604教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	関 朋昭	スポーツ経営学の研究課題			予習1時間、復習1時間	
2	〃	スポーツ経営における研究の量的分析方法			予習1時間、復習1時間	
3	〃	スポーツ経営における研究の質的研究方法			予習1時間、復習1時間	
4	〃	統計資料及び統計分析を用いたスポーツ経営研究事例の検討			予習1時間、復習1時間	
5	〃	研究事例の検討： スポーツ組織に関する研究			予習1時間、復習1時間	
6	〃	研究事例の検討： スポーツマーケティング戦略			予習1時間、復習1時間	
7	〃	研究事例の検討： スポーツクラブのエリアマーケティング			予習1時間、復習1時間	
8	〃	研究事例の検討： 職場内フィットネスプログラムの経済効果			予習1時間、復習1時間	
9	〃	研究事例の検討： スポーツクラブの利用者行動			予習1時間、復習1時間	
10	〃	研究事例の検討： スポーツ施設の財務管理			予習1時間、復習1時間	
11	〃	研究事例の検討： 市民スポーツイベントの参加行動			予習1時間、復習1時間	
12	〃	研究事例の検討： スポーツイベントの波及効果			予習1時間、復習1時間	
13	〃	研究事例の検討： スポーツ製品・プログラムの開発			予習1時間、復習1時間	
14	〃	研究事例の検討： I T化とグローバル化社会における経営モデル			予習1時間、復習1時間	
15	〃	総括と評価				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特殊研究【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	川西 正志				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	生涯スポーツ科学分野での運動・スポーツの現状と課題について、社会科学的アプローチから社会的・歴史学的現象の解明と研究方法を考究することを目的とする。スポーツと個人・社会・文化の関係を、これまでの社会学・歴史学・文化学的研究動向から概観し、これまでの理論的立場から、諸現象について、より高度な研究視点より、記述、説明、分析する研究能力の習得を目指す。特に、国際研究の視点より日本社会におけるスポーツ社会学研究の独自性について比較考察するとともに、そこでの研究方法論について学ぶ。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（20%） ☒ レポート等の提出状況（80%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	池田勝、守能信次、川西正志他著 「講座スポーツの社会科学シリーズ－スポーツ社会学」杏林書院。 川西正志、野川春夫編著「生涯スポーツ実践論」市村出版。 川西正志、野川春夫監訳「ヨーロッパ諸国のスポーツクラブ」市村出版。 授業時配布の資料					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	川西 正志	スポーツ社会学の定義と社会的機能			参考書・資料等の復習及び予習（30分）	
2	〃	社会学的研究法－問題意識と理論的枠組み、ケーススタディと社会調査			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	スポーツへの社会化論と遊びの社会文化研究			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	少子高齢化社会とスポーツ－高齢者と青少年スポーツの研究			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
5	〃	グローバリゼーションとローカリゼーション－スポーツ文化と地域社会変容			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	スポーツの国際比較－欧米のスポーツ政策とキャンペーン活動			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
7	〃	スポーツの国際比較－欧米のクラブ・コミュニティ			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
8	〃	スポーツの社会経済的効果研究			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
9	〃	スポーツ社会学と社会科学的認識			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
10	〃	スポーツ社会学における科学的概念の問題			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
11	〃	スポーツ社会学における「行為」の概念			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
12	〃	大衆社会状況とスポーツの価値規範			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
13	〃	法的・政治的側面から見たスポーツの国際比較			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
14	〃	スポーツ社会学における課題とその展望			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
15	〃	まとめ、評価			授業中の課題についてのレポート作成（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特殊研究演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	川西 正志				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	スポーツ社会学特殊研究の内容についての演習を行う。これまでの研究成果について概観し、特に、調査研究と文献的研究の諸外国や日本の研究論文から、研究方法論、研究成果と課題をまとめ考究する。研究論文・文献の正確な読解法を習得する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（20%） ■レポート等の提出状況（80%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	Sociology of Sport Journal. International Review for the Sociology of Sport. Journal of Leisure Research. 他随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	川西 正志	スポーツ社会学概念に関する研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（30分）	
2	〃	スポーツ社会学概念に関する研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	スポーツ社会学概念に関する研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	スポーツ社会学概念に関する研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
5	〃	スポーツ社会学研究課題に関する研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	スポーツ社会学研究課題に関する研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
7	〃	研究方法論に関する課題発表・プレゼンテーション			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
8	〃	研究方法論に関する課題発表・プレゼンテーション			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
9	〃	北米におけるスポーツ社会学研究の方法論に関する分析（1）			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
10	〃	北米におけるスポーツ社会学研究の方法論に関する分析（2）			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
11	〃	ヨーロッパ英語圏におけるスポーツ社会学研究の特性分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
12	〃	ヨーロッパ非英語圏におけるスポーツ社会学研究の特性分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
13	〃	日本におけるスポーツ社会学研究の目的と方法			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
14	〃	研究における問題意識と方法に関するプレゼンテーション			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
15	〃	総合討論			授業中の課題についてのレポート作成（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学特殊研究【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (健康文化・社会科学)
担当教員名	宮地 元彦				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	生涯スポーツ学はスポーツ科学における人文科学ならびに自然科学の両面からの検証を必要とする学問領域である。したがって、研究を遂行するにあたり多岐にわたる文献に精通し、多様な研究手法・技術を習得する必要がある。本研究講義では担当教員がこれまでにやってきた研究の成果を土台に、受講生がより高いレベルでの研究を遂行するための知識と技術を教授する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（ ％） ■授業への取組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	学術誌に投稿できるレベルのシステムティックレビュー論文を執筆することができる。					
テキスト、教材 参 考 書	社会疫学（上・下）					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)	受講期間を通し、関連論文を粘り強く精読し、データの収集と分析に情熱を傾けることができる学生の受講を希望する。	
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	宮地 元彦	生涯スポーツの定義と提要の範囲			指定教材等の予習（3時間）	
2	〃	生涯スポーツの医学分野への応用			指定教材等の復習及び予習（4時間）	
3	〃	生涯スポーツの工学分野への応用			指定教材等の復習及び予習（4時間）	
4	〃	生涯スポーツの行政・地域への応用			指定教材等の復習及び予習（4時間）	
5	〃	生涯スポーツの職域・経営への応用			指定教材等の復習及び予習（4時間）	
6	〃	生涯スポーツにおける課題の探索			指定教材等の復習及び予習（4時間）	
7	〃	生涯スポーツ文献の検索と渉猟			文献検索等の復習及び予習（4時間）	
8	〃	生涯スポーツ文献の精読 1			文献精読等の復習及び予習（4時間）	
9	〃	生涯スポーツ文献の精読 2			文献精読等の復習及び予習（4時間）	
10	〃	生涯スポーツ文献の精読 3			文献精読等の復習及び予習（4時間）	
11	〃	生涯スポーツ文献の精読 4			文献精読等の復習及び予習（4時間）	
12	〃	精読論文の考察と執筆 1			草稿執筆等の復習及び予習（4時間）	
13	〃	精読論文の考察と執筆 2			草稿執筆等の復習及び予習（4時間）	
14	〃	精読論文の考察と執筆 3			草稿執筆等の復習及び予習（4時間）	
15	〃	論文の提出とプレゼンテーション			資料作成等の復習及び予習（4時間）	
16	〃	総括			論文の仕上げ等の復習及び予習（4時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学特殊研究演習【夜間】	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (健康文化・社会科学)
担当教員名	宮地 元彦			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	応用生涯スポーツ研究を遂行するためには人文科学ならびに自然科学の両方の手法を活用する必要がある。したがって、研究を遂行するためには技術や知識だけでなく、交渉力や課題可決能力が求められる。本研究演習では、受講生が研究を完遂のために必要な手法を教授する。				
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（ %） ☒ 授業への取組み状況（60%） ☒ レポート等の提出状況（40%） を総合的に評価する。				
成績評価の基準	学術誌に投稿することができる水準の原著論文を執筆することができる。				
テキスト、教材 参 考 書	教員および受講生が準備した論文等				
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッ セージ含む)	研究データの収集のためのフィールドワークや実験と分析に情熱を傾けることができる学生の受講を希望する。		
オフィス・アワー					
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	宮地 元彦	生涯スポーツ研究で用いる研究技術と手法		指定教材等の予習（4時間）	
2	〃	研究課題の検討と決定		指定教材等の復習及び予習（4時間）	
3	〃	フィールドワーク 1		測定・調査の準備等の復習及び予習（4時間）	
4	〃	フィールドワーク 2		測定・調査の準備等の復習及び予習（4時間）	
5	〃	フィールドワーク 3		測定・調査の準備等の復習及び予習（4時間）	
6	〃	フィールドワーク 4		測定・調査の準備等の復習及び予習（4時間）	
7	〃	実験とデータ分析 1		測定・調査データ解析の準備等の復習及び予習（4時間）	
8	〃	実験とデータ分析 2		測定・調査データ解析の準備等の復習及び予習（4時間）	
9	〃	実験とデータ分析 3		測定・調査データ解析の準備等の復習及び予習（4時間）	
10	〃	実験とデータ分析 4		測定・調査データ解析の準備等の復習及び予習（4時間）	
11	〃	論文草稿執筆 1		草稿執筆等の復習及び予習（4時間）	
12	〃	論文草稿執筆 2		草稿執筆等の復習及び予習（4時間）	
13	〃	論文草稿執筆 3		草稿執筆等の復習及び予習（4時間）	
14	〃	論文校閲と投稿		論文投稿等の復習及び予習（4時間）	
15	〃	査読対応と修正		論文投稿等の復習及び予習（4時間）	
16	〃	総括		論文投稿等の復習及び予習（4時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ経営学特殊研究【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (経済文化・社会科学)
担当教員名	関 朋昭				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツ経営学は欧米、特にアメリカのスポーツ産業の隆盛に伴って従来の体育管理から独立・発展し、生涯スポーツにみる教員養成以外の体育スポーツ分野での専門家養成を担う役割を今日果たしている。特にスポーツ施設の経営管理的側面の現状と可能性を探り、スポーツ経営学の応用的な考え方を提示するとともに、スポーツ消費行動、マーケティング戦略の構築と展開、スポーツイベントの企画・開催、スポーツ施設・用具・プログラムの開発・運営、さらにスポーツの経済的効用について理解を深める。スポーツの経営における諸課題を解決するために必要な手法や方法論についての科学的な研究も深める。特にゲーム理論や行動経済学の理論を使って考察を行う。					
成績評価の方法	■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表も入れて総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	適時指定する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	関：604教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	関 朋昭	スポーツ経営とその学問体系			先行研究の検討 予習1時間、復習1時間	
2	〃	マーケティングと情報資本主義			予習1時間、復習1時間	
3	〃	ライフスタイル（生涯スポーツ）			予習1時間、復習1時間	
4	〃	スポーツ施設の立地と経営			予習1時間、復習1時間	
5	〃	スポーツ施設におけるプログラムとサービス			予習1時間、復習1時間	
6	〃	スポーツイベントにおける経営			予習1時間、復習1時間	
7	〃	スポーツと地域経済（スポーツ・ツーリズムを含む）			予習1時間、復習1時間	
8	〃	財務・会計と法的側面			予習1時間、復習1時間	
9	〃	スポーツ市場と消費行動			予習1時間、復習1時間	
10	〃	競技（アマチュア）スポーツの経営			予習1時間、復習1時間	
11	〃	プロスポーツの経営			予習1時間、復習1時間	
12	〃	スポーツ用品・用具とライセンス			予習1時間、復習1時間	
13	〃	スポーツ経営とメディア・放送			予習1時間、復習1時間	
14	〃	スポーツ経営における倫理的側面とキャリア			予習1時間、復習1時間	
15	〃	まとめ、評価				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ経営学特殊研究演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (経済文化・社会科学)
担当教員名	関 朋昭				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツ経営学特殊研究で学習した理論や内容をもとに、スポーツ経営学全般に関する先進的事例を収集する。特にスポーツ経営に関する研究方法を中心に実際の研究事例を精査し、博士論文の研究方法をあわせて検討を試みる。特にゲーム理論や行動経済学の理論を使って考察を行う。					
成績評価の方法	■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表も入れて総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時紹介する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	関：604教員室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	関 朋昭	スポーツ経営学の研究課題			予習1時間、復習1時間	
2	〃	スポーツ経営における研究の量的分析方法			予習1時間、復習1時間	
3	〃	スポーツ経営における研究の質的研究方法			予習1時間、復習1時間	
4	〃	統計資料及び統計分析を用いたスポーツ経営研究事例の検討			予習1時間、復習1時間	
5	〃	研究事例の検討： スポーツ組織に関する研究			予習1時間、復習1時間	
6	〃	研究事例の検討： スポーツマーケティング戦略			予習1時間、復習1時間	
7	〃	研究事例の検討： スポーツクラブのエリアマーケティング			予習1時間、復習1時間	
8	〃	研究事例の検討： 職場内フィットネスプログラムの経済効果			予習1時間、復習1時間	
9	〃	研究事例の検討： スポーツクラブの利用者行動			予習1時間、復習1時間	
10	〃	研究事例の検討： スポーツ施設の財務管理			予習1時間、復習1時間	
11	〃	研究事例の検討： 市民スポーツイベントの参加行動			予習1時間、復習1時間	
12	〃	研究事例の検討： スポーツイベントの波及効果			予習1時間、復習1時間	
13	〃	研究事例の検討： スポーツ製品・プログラムの開発			予習1時間、復習1時間	
14	〃	研究事例の検討： I T 化とグローバル化社会における経営モデル			予習1時間、復習1時間	
15	〃	総括と評価				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ歴史人類学特殊研究【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	山田 理恵・真田 久				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本授業では、オリンピック競技祭で実際に行われた競技を実際に復元して行うための理論と方法について学ぶ。また、日本の伝統的なスポーツの復元に関する理論と方法についても修得する。 それらによって、スポーツの歴史人類学的研究の理論と方法、専門的知識を身につけることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	随時課す課題および発表の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書は適宜紹介する。必要に応じて資料を配付する。					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ歴史人類学特殊研究演習【夜間】」と併せて履修することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)	スポーツ歴史人類学を学んで、スポーツ文化の復興にかかわろう。	
オフィス・アワー	真田：山田を通して調整 山田：随時（705研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	真田 久	文化復元の理論			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
2	山田 理恵 真田 久	スポーツ文化の復元			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
3	〃	古代ギリシアの四大競技祭			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
4	〃	オリンピック競技祭の概要			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
5	真田 久	オリンピック競技祭の槍投げ競技			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
6	〃	オリンピック競技祭の円盤投げ競技			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
7	〃	オリンピック競技祭の幅跳び競技			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
8	〃	オリンピック競技祭の馬の競技			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
9	〃	ネメアの発掘			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
10	〃	ネメア競技祭の復興			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
11	山田 理恵	鹿児島の伝統スポーツ			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
12	〃	鹿児島の伝統スポーツの復元			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
13	〃	鹿児島の伝統スポーツの復興			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
14	山田 理恵 真田 久	スポーツ文化の復興			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
15	〃	まとめ			参考書・資料等の予習および復習、まとめ（40分以上）	
16	山田 理恵	学期末試験は行わない。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ歴史人類学特殊研究演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ文化・社会科学)
担当教員名	山田 理恵・真田 久				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本授業では、古代競技祭や鹿児島で行われた競技を実際に復元して行うための理論と方法について実践的に学ぶ。また、過去に行われていたスポーツ文化（民族スポーツ）を歴史人類学的に復元し、今日的な視点加えて復興する知識と方法を修得する。 それらによって、スポーツの歴史人類学的研究の方法論および専門的知識を身につけることができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	随時課す課題および発表の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書は適宜紹介する。必要に応じて資料を配布する。					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ歴史人類学特殊研究【夜間】」と併せて履修することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	真田：山田を通して調整 山田：随時（705研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	真田 久	ネメア競技2004の史料集の検討（開催経過）			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
2	〃	ネメア競技2004の史料集の検討（競技規定と参加者）			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
3	〃	ネメア競技2008の史料集の検討（開催経過）			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
4	〃	ネメア競技2008の史料集の検討（競技規定と参加者）			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
5	〃	ネメア競技2012の史料集の検討（開催経過）			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
6	〃	ネメア競技2012の史料集の検討（競技規定と参加者）			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
7	山田 理恵	俘虜（捕虜）生活とスポーツに関する史料の検討			参考書・資料等の予習および復習（80分以上）	
8	〃	伝統打球戯に関する史料の検討			参考書・資料等の予習および復習（80分以上）	
9	〃	伝統綱引きに関する史料の検討			参考書・資料等の予習および復習（80分以上）	
10	真田 久	古代競技の賞の制作			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
11	山田 理恵 真田 久	古代競技の衣裳の制作			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
12	真田 久	古代競技の槍の制作			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
13	〃	古代競技の跳躍重りの制作			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
14	山田 理恵 真田 久	古代競技祭の復元的開催			参考書・資料等の予習および復習（30分以上）	
15	〃	まとめ			参考書・資料等の予習および復習、まとめ（40分以上）	
16	山田 理恵	学期末試験は行わない。				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特殊研究 (323A3-1300)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗・中本 浩揮				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツを含む様々な運動場面における人間の行動・心理に関する諸問題について運動制御や自己制御学習や熟達の観点から考究する。記憶・注意・思考などの認知的機能と運動・スポーツ行動との関係といった認知心理学的側面に関する問題を論ずる。 本特殊研究の達成目標は、記憶・注意・思考などの認知的機能と運動・スポーツ行動との関係といった認知心理学的側面に関しての最近の研究動向をレビューする。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（20％） ■レポート等の提出状況（80％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	スポーツを含む運動場面での人間の行動・心理に関する諸問題について運動制御や自己調整学習や熟達の観点から論究された論文を読み、その理解度から評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	資料等は適時配布する					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時 研究棟7階 702・707研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗 中本 浩揮	学際的な研究領域の開拓を目指した授業計画とオリエンテーション				
2	〃	運動制御と学習の基礎（1）			授業の予習と復習（1時間）	
3	〃	運動制御と学習の基礎（2）			授業の予習と復習（1時間）	
4	〃	運動制御と学習の基礎（3）			授業の予習と復習（1時間）	
5	〃	自己制御と運動学習（1）			授業の予習と復習（1時間）	
6	〃	自己制御と運動学習（2）			授業の予習と復習（1時間）	
7	〃	自己制御と運動学習（3）			授業の予習と復習（1時間）	
8	〃	スポーツにおける熟達化の概論（1）			授業の予習と復習（1時間）	
9	〃	スポーツにおける熟達化の概論（2）			授業の予習と復習（1時間）	
10	〃	スポーツにおける熟達化の概論（3）			授業の予習と復習（1時間）	
11	〃	運動制御の熟達による脳の構造的、機能的変化（1）			授業の予習と復習（1時間）	
12	〃	運動制御の熟達による脳の構造的、機能的変化（2）			授業の予習と復習（1時間）	
13	〃	運動制御の熟達と知覚（1）			授業の予習と復習（1時間）	
14	〃	運動制御の熟達と知覚（2）			授業の予習と復習（1時間）	
15	〃	運動制御の熟達と知覚（3）			授業の予習と復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特殊研究演習 (326B3-2301)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗・中本 浩揮				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	スポーツを含む様々な運動場面における人間の行動・心理に関する諸問題について知覚－運動システムや知覚トレーニングの観点から考究する。タイミング制御や運動制御、エキスパートメカニズムなどの認知的機能と運動・スポーツ行動との関係といった認知心理学的側面に関して論究した研究内容について演習形式で学ぶ。 本特殊研究演習の達成目標は、記憶・注意・思考などの認知的機能と運動・スポーツ行動との関係といった認知心理学的側面に関しての最近の研究方法をレビューする。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（20%） ☒ レポート等の提出状況（80%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	スポーツを含む運動場面での人間の行動・心理に関する諸問題について知覚－運動システムや知覚トレーニングの観点から論究された論文を読み、その理解度から評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	適時配布する					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時 研究棟7階 702、707研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗 中本 浩揮	知覚－運動課題におけるタイミング制御(1)			授業の予習と復習（1時間）	
2	〃	知覚－運動課題におけるタイミング制御(2)			授業の予習と復習（1時間）	
3	〃	知覚－運動課題におけるタイミング制御(3)			授業の予習と復習（1時間）	
4	〃	一致タイミング課題における運動修正(1)			授業の予習と復習（1時間）	
5	〃	一致タイミング課題における運動修正(2)			授業の予習と復習（1時間）	
6	〃	一致タイミング課題における運動修正(3)			授業の予習と復習（1時間）	
7	〃	Quiet eye に関して(1)			授業の予習と復習（1時間）	
8	〃	Quiet eye に関して(2)			授業の予習と復習（1時間）	
9	〃	Quiet eye に関して(3)			授業の予習と復習（1時間）	
10	〃	知覚トレーニング(1)			授業の予習と復習（1時間）	
11	〃	知覚トレーニング(2)			授業の予習と復習（1時間）	
12	〃	知覚トレーニング(3)			授業の予習と復習（1時間）	
13	〃	運動学習における顕在学習と潜在学習(1)			授業の予習と復習（1時間）	
14	〃	運動学習における顕在学習と潜在学習(2)			授業の予習と復習（1時間）	
15	〃	今後の研究の方向性			レポート作成	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ医科学特殊研究 (323A21302)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	安田 修・藤井 康成				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	スポーツ活動などの高度のトレーニングを持続すると、心臓の肥大・拡張、及び徐脈などの心臓の形態や機能に種々の変化が生じることが知られている。運動が心血管系に及ぼす影響を心電図、心エコーおよび血管エコーを用いて研究できるように、その基礎と応用について解説する。また、近年、スポーツの幅広い年代層への普及とともに、スポーツ活動に伴う障害が注目され、コンディショニングの重要性への認識が高まってきている。整形外科的な立場から、上肢・体幹・下肢の大きく3つに分け、それぞれに代表的な障害の発生原因と診断や治療法を解説するとともに、各障害に対するコンディショニングの方法を考究する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（80％） ■レポート等の提出状況（20％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記を合計して判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	（参考書） Heart Disease（Braunwald著） （参考書） Textbook of Clinical Echocardiography（C M. Otto著） （参考書） Electrophysiology of the heart（Robert Anderson著） （参考書） Vascular Ultrasound of the neck（Alayon著） （参考書） Therapeutic Exercise for Lumbopelvic Stabilization, 2nd edition Richardson C.et al（Churchill Livingstone） （論文） 藤井康成：マルアライメント症候群の予防－骨盤のmobilityの新しい評価法の有用性－、臨床スポーツ(文光堂)、2007年 藤井康成：ハムストリングのタイトネス評価時に簡便に行える骨盤のmobilityの評価法、日整会スポ会誌、2006年					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	随時 保健管理センター					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	安田 修	イントロダクション				
2	〃	心臓血管の形態と機能			Heart Disease（Braunwald著）から必要部分を抽出して解説	
3	〃	心電図概論（1）			Electrophysiology of the heart（Robert Anderson著）から必要部分を抽出して解説	
4	〃	心電図概論（2）			Electrophysiology of the heart（Robert Anderson著）から必要部分を抽出して解説	
5	〃	心エコー概論			Textbook of clinical Echocardiography（Otto著）から必要部分を抽出して解説	
6	〃	血管エコー概論			Vascular Ultrasound of the neck（Alayon著）から必要部分を抽出して解説	
7	〃	スポーツ心臓概論				
8	〃	血管エコー各論				
9	藤井 康成	スポーツ外傷・障害学〔総論〕				
10	〃	スポーツ外傷・障害学〔各論〕 上肢：解剖				
11	〃	スポーツ外傷・障害学〔各論〕 上肢：診断および治療法				
12	〃	スポーツ外傷・障害学〔各論〕 体幹：解剖				
13	〃	スポーツ外傷・障害学〔各論〕 体幹：診断および治療法				
14	〃	スポーツ外傷・障害学〔各論〕 下肢：解剖				
15	〃	スポーツ外傷・障害学〔各論〕 下肢：診断および治療法				
16	〃	総括と評価				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ医科学特殊研究演習 (326B2-2303)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	安田 修・藤井 康成				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	運動の心血管系に及ぼす影響を心電図、超音波装置、心肺機能測定装置などを実際に用いて学ぶ。 また、スポーツ外傷・障害の診断、治療、予防に必要な知識を習得しながら、実際のメディカルチェックの手法を理解し、その結果を解析するとともに、治療法やコンディショニングの処方内容についても解説する。また、具体的な症例を通して、コンディショニングのためのトレーニングを計画し、その効果を、演習を通して学ぶ。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（80％） ☒ レポート等の提出状況（20％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記を合計して判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	（参考書）血管エコーのすべて頭部から末梢まで 増山理 南江堂 （参考書）心エコーのABC 五島慶二 中山書店 （参考書）心電図のABC 五島慶二 協和企画通信 （参考書）不整脈の診かたと治療 五十嵐正男 医学書院 （参考書）Therapeutic Exercise for Lumbopelvic Stabilization, 2nd edition Richardson C.et al （Churchill Livingstone） （論文）藤井康成：マルアライメント症候群の予防－骨盤のmobilityの新しい評価法の有用性－、臨床スポーツ(文光堂)、2007年 藤井康成：ハムストリングのタイトネス評価時に簡便に行える骨盤のmobilityの評価法、日整会スポ会誌、2006年					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	随時 保健管理センター					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	安田 修	安静時心電図：装置の概略、記録及び解析				
2	〃	運動負荷心電図：トレッドミルを用いる。記録及び解析				
3	〃	ホルター心電図：機器の取り扱いの説明、ホルターの装着記録及び解析				
4	〃	心エコー図1：装置の概略、Mモード法と断層法を用いて記録及び解析				
5	〃	心エコー図2：ドップラー法を用いて左室流入血量などを記録及び解析				
6	〃	頸動脈エコー図：Mモード法、断層法およびドップラー法を用いて記録及び解析				
7	〃	熱中症および心停止に対する応急処置の実施				
8	〃	心エコー図などの計測および以上の実習で得た知識で個人の研究プランの作成				
9	藤井 康成	スポーツ外傷・障害の診断：上肢1手、手関節、肘関節（診察法について解説ならびに演習を行う）				
10	〃	スポーツ外傷・障害の診断：上肢2肩関節および肩甲帯（診察法について解説ならびに演習を行う）				
11	〃	スポーツ外傷・障害の診断：体幹1頸、胸椎（診察法について解説ならびに演習を行う）				
12	〃	スポーツ外傷・障害の診断：体幹2腰椎（診察法について解説ならびに演習を行う）				
13	〃	スポーツ外傷・障害の診断：下肢1骨盤、股関節（診察法について解説ならびに演習を行う）				
14	〃	スポーツ外傷・障害の診断：下肢2膝関節（診察法について解説ならびに演習を行う）				
15	〃	スポーツ外傷・障害の診断：下肢3下腿、足（診察法について解説ならびに演習を行う）				
16	〃	総括と評価				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生理学特殊研究 (323A2-1304)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (※-7生命科学)
担当教員名	堀内 雅弘				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	運動は、身体内で産生された化学的エネルギーを使って骨格筋を収縮させ、体肢を通じて外的に力・パワーを発揮することで遂行される。多くの場合、そのエネルギー産生能力が外的に発揮される機械的パワーの大きさを決定し、結果としてパフォーマンスの優劣を決している。それ故に、エネルギー産生能力に関する研究は、その評価法、効果的トレーニング法、環境要因が及ぼす影響、限定要因の解明など、古くから運動生理学領域における興味を中心として行われてきた。本講義では、運動時の有酸素性、無酸素性エネルギー産生動態のメカニズム、産生能力の限定要因の解明、および運動様式や環境要因がそれらに及ぼす影響など、生体エネルギー論を中心に概説する。特に、有酸素性エネルギー供給動態については、酸素運搬に寄与している中心・末梢循環の調節機序と関連させながら、無酸素性エネルギー供給動態については、高強度運動パフォーマンス、トレーニング法などと関連させながら、最新の文献、知見を用いて抄読、論議、および解説を展開する。これにより、最新の情報を実際に自分の研究テーマ、実験に当てはめ、応用、考察し、理解をさらに深めさせることが期待できる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	自らの研究領域を見渡し、現在の国内外における研究の動向や究明されている内容などを理解しているかどうか、および本授業で学んだ循環・代謝の観点から新たな視点で研究をデザインする能力を養えたかどうかを、授業での発表・内容、レポートなどから総合的に評価する。尚、国際学会で発表、あるいは学術誌へ投稿した論文が受諾掲載された場合は、上記のレベルにあるとみなす。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書 運動生理学概論（浅野勝己編著、杏林書院、2800円） 新運動生理学上・下巻（宮村実晴編、真興交易（株）医書出版部、各13000円） パワーズ運動生理学（内藤久ら日本語監修、メディカル・サイエンスインターナショナル、10000円） その他随時紹介					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	スポーツ生理学特殊研究演習と合わせて履修することが望ましい		
オフィス・アワー	あらかじめ連絡をしてもらえれば随時対応。 研究棟3階 303研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	堀内 雅弘	運動生理学概論－呼吸循環系調節の生体内意義と身体エネルギー論－			配付資料の復習（1時間）	
2	〃	酸素運搬に対する中心循環系の役割－心臓拍出能力の評価と運動時の心拍調節－			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポート作成準備（1時間）	
3	〃	酸素運搬に対する末梢循環系の役割 －体肢、活動筋量の違いがもたらす運動時末梢循環系調節機序の差異－			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポート作成準備（1時間）	
4	〃	運動時の中心循環、末梢循環応答 －運動開始時の調節機序、運動強度にともなう変化－			配付資料の復習と関連論文の検索、および提出レポートの作成（2～4回目分）（2時間）	
5	〃	環境要因と循環応答の変化1－低酸素が中心循環、末梢循環応答に与える影響－			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
6	〃	環境要因と循環応答の変化2 －外気温（暑熱、寒冷）が中心循環、末梢循環応答に与える影響－			配付資料の復習と関連論文の検索、および提出レポートの作成（5～6回目分）（2時間）	
7	〃	パワーの区分とエネルギー代謝特性 －有酸素性・無酸素性エネルギー供給機構の重要性とパワー発揮との関連－			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
8	〃	エネルギー供給動態への影響因子 －有酸素性、無酸素性エネルギー供給バランスの調整機序－			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
9	〃	運動様式とエネルギー供給動態 －活動筋量、活動体肢の違いが代謝特性に与える影響－			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
10	〃	間欠的運動時のエネルギー供給動態－運動強度、運動時間、休息时间との関連－			配付資料の復習と関連論文の検索、および提出レポートの作成（7～10回目分）（2時間）	
11	〃	環境要因とエネルギー供給動態 －低酸素が有酸素性・無酸素性エネルギー供給バランスに与える影響－			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
12	〃	エネルギー代謝特性に応じたトレーニング法 －有酸素性・無酸素性エネルギー供給能力を向上させる鍵因子－			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
13	〃	特殊環境を利用したトレーニングの影響1 －低酸素トレーニングがエネルギー供給能力、呼吸循環機能に及ぼす影響－			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
14	〃	特殊環境を利用したトレーニングの影響1－低酸素環境が認知機能と脳循環応答に及ぼす影響－			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
15	〃	特殊環境を利用したトレーニングの影響2 －暑熱環境下でのトレーニングがエネルギー供給能力、呼吸循環機能に及ぼす影響－			配付資料の復習と関連論文の検索、および提出レポートの作成（11～15回目分）（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生理学特殊研究演習 (326B2-2305)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	堀内 雅弘				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	運動をしたり、特殊環境に曝露されると、生体における諸生理機能は、合目的に亢進、あるいは抑制され、生体内の恒常性を維持しようと作用する。この様な局所的、あるいは全身的に認められる生理応答・適応のメカニズムを理解することは、効果的に生体機能を改善、向上させるためにも重要な意味を持つ。本演習では、様々な強度、様々なタイプにおける身体運動時のエネルギー供給動態、エネルギー産生能力の限定要因、あるいは特殊環境に対するエネルギー供給系の応答変化、それにともなう中心・末梢循環適応等をテーマとし、受講生が興味を抱くそれぞれのテーマについて、最新のトピックス、論文、総説などを取り上げ、各々発表し、相互に議論を展開する。これによって、学際的に幅広い理解と未解明となっている問題点を明確にし、博士論文執筆にあたり、積極的な理論構築、考察能力を習得することが期待できる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	自らの研究領域について見渡し、現在の国内外における研究の動向や究明されている内容などを理解しているかどうか、および本授業で学んだ循環・代謝の観点から新たな視点で研究をデザインする能力を養えたかどうかを、授業での発表・内容、レポートなどから総合的に評価する。 尚、国際学会で発表、あるいは学術誌へ投稿した論文が受諾掲載された場合は、上記のレベルにあるとみなす。					
テキスト、教材 参 考 書	関連資料、論文、総説などについては、その都度紹介する					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	スポーツ生理学特殊研究と合わせて履修することが望ましい		
オフィス・アワー	あらかじめ連絡をしてもらえれば随時対応。 研究棟3階 303研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	堀内 雅弘	オリエンテーション（授業進行・内容に関する説明と発表内容、発表順番等の確認）			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
2	〃	運動時の循環系調節1 一心臓拍出動態と血圧調整機序－			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
3	〃	運動時の循環系調節2 一体肢、活動筋量の違いがもたらす末梢循環系調節機序の差異－			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
4	〃	－運動開始時の中心・末梢循環応答、運動強度にともなう変化－			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
5	〃	－低酸素が中心循環、末梢循環応答に与える影響－			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
6	〃	全身運動時のエネルギー代謝 ー運動持続時間に対する有酸素性・無酸素性エネルギー供給機構の重要性の変化ー			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
7	〃	全身運動と局所運動 ー運動持続時間、運動強度、エネルギー代謝特性の違いー			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
8	〃	運動成績とエネルギー供給能力 ー有酸素性か、無酸素性か？ー			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
9	〃	エネルギー供給能力に対する影響因子1 ー活動筋量、循環系能力ー			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
10	〃	エネルギー供給能力に対する影響因子2 ー特殊環境ー			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
11	〃	間欠的運動時のエネルギー供給動態 ー運動強度、運動時間、休息時間、反復回数との関連ー			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
12	〃	エネルギー代謝特性に応じたトレーニング法1 ー有酸素性・無酸素性エネルギー供給能力を向上させる鍵因子ー			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
13	〃	エネルギー代謝特性に応じたトレーニング法2 ー持続的運動と間欠的運動がもたらす特異的效果ー			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
14	〃	特殊環境を利用したトレーニングの影響1 ー低酸素環境下におけるトレーニング効果ー			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）	
15	〃	特殊環境を利用したトレーニングの影響2 ー暑熱環境下におけるトレーニング効果ー			授業全体の中で最も自らの研究に近いテーマを選び、レポートにまとめる（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	体力科学特殊研究 (323A2-1306)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (※7生命科学)	
担当教員名	田巻 弘之・與谷 謙吾				補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	—		受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本科目では、身体活動による生体応答メカニズムに準拠した体力・健康の増進の学識と研究能力を養うため、筋骨格系や神経系などが運動実践で円滑に協調的に働くしくみを学ぶ。本授業により、行動体力の各要素を類別し、運動の効果について議論することができる。						
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％） を総合的に評価する。						
成績評価の基準	論文の抄読・プレゼンテーションの内容、他者のプレゼンテーションに対する積極的な関わり、自身の研究テーマについての理解等から総合的に評価する。						
テキスト、教材 参 考 書	（参考書）1）運動と体力の生理学、芝山秀太郎著、一條書店、2）Myology vol.I, Franzini-Armstrong C.編集, McGraw-Hill, (1994) ISBN: 978-0079111340、3）Fatigue, Gandevia SC編集, Plenum Publishing, (1995), ISBN-13: 978-0306451393、4）Skeletal muscle damage and repair, Tiidus, PM編集, Human Kinetics, (2008), ISBN: 978-0736058674、5）神経科学, 加藤宏司監訳, 西村書店 (2007), ISBN: 978-4890133567, （資料）適宜配布する。						
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクスの基礎知識を備えていること。			備考(教員メッセージ含む)	履修に関しては、事前に相談のこと。		
オフィス・アワー	田巻：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	田巻 弘之	オリエンテーション、体力の構成要素の概要、PubMed、EndNoteの使い方			参考書1を熟読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。（2時間）		
2	〃	筋力発現機序：筋細胞の超微細構造と筋収縮のしくみ			参考書2のChapter7を一読し、筋収縮に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）		
3	〃	骨格筋の疲労と持久力：生体電気の発現と筋収縮エネルギーの利用と機能低下			参考書3のSection 1、 IIを一読し、神経-筋系の疲労に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）		
4	〃	過度な運動や不動による筋損傷、萎縮と再生のしくみ			参考書4のChapter3、6を一読し、筋損傷と再生に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）		
5	〃	運動学習の基盤をなす運動刺激による神経-筋機能の可塑性変化			参考書5の25章を一読し、long-term potentiation/depressionに関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）		
6	〃	骨形成と吸収を調節する神経系の働き ～骨の健康維持に神経も活躍する～			配布資料を通読し、骨と神経の関連性に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）		
7	〃	骨組織における機械的刺激の感受機構と運動の効果 ～骨細胞の老化と運動効果の現れ方～			配布資料を通読し、骨細胞に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）		
8	〃	骨組織や骨格筋が分泌する生理活性物質と運動の効果 ～体力、健康への寄与～			配布資料を通読し、マイオカインやオステオカインに関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）		
9	與谷 謙吾	神経系に関わる体力要素			配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）		
10	〃	神経系の体力に関する経年変化：幼少期から成人			配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）		
11	〃	運動制御に関わる脊髄反射のしくみ：神経と筋の組合せ			参考書5の25章を一読し、授業内容に関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）		
12	〃	体力(敏捷性)に関わる反応時間評価と注意点			配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）		
13	〃	敏捷性：筋力トレーニングに伴う反応時間の変化			配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）		
14	〃	敏捷性：視覚トレーニングに伴う反応時間の変化			配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）		
15	〃	敏捷性：反応時間の変化に伴う転移効果			配布資料を精読とこれまでの授業内容を整理し、まとめる。（2時間）		

授業科目名 (ナンバリングコード)	体力科学特殊研究演習 (326B2-2307)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (※-7生命科学)
担当教員名	田巻 弘之・與谷 謙吾			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本科目では、身体活動による生体応答メカニズムに準拠した体力・健康の増進の研究成果を実践に結びつけるため、行動体力の基盤である筋骨格系や神経系がシステムティックに機能することをプレゼンテーションやディスカッションを通して学ぶ。本授業により、行動体力の各要素を類別し、運動効果に関する研究成果の応用について議論することができる。				
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70%） ■レポート等の提出状況（30%） を総合的に評価する。				
成績評価の基準	担当する発表の内容、質疑応答状況、課題等の提出により点数を加算して総合評価する				
テキスト、教材 参 考 書	（参考書）1)健康・体力のための運動生理学, 石河利寛著, 杏林書院, ISBN:978-4764410435, 2) 計測法入門―計り方, 計る意味, 内山 靖, 協同医書出版社 (2001), ISBN:978-4763910301, 3) Fatigue, Gandevia SC編集, Plenum Publishing, (1995), ISBN-13: 978-0306451393, 4) 細胞・組織染色の達人, 大久保和央(著), 羊土社 (2018), ISBN:978-4758122375, 5) 新しい骨形態計測, 遠藤直人監修, ウィネット (2014), ISBN:978-4434190803, 6) Skeletal muscle damage and repair, Tiidus, PM編集, Human Kinetics, (2008), ISBN-13: 978-0736058674, 7) 神経科学, 加藤宏司監訳, 西村書店 (2007), ISBN-13: 978-4890133567, 8) 臨床神経生理学, 柳澤信夫, 医学書院 (2008), ISBN:978-4-260-00709-2 （資料）適宜配布する。				
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクスの基礎知識を備えていること。	備考(教員メッセージ含む)	履修に関しては、事前に相談のこと。		
オフィス・アワー	田巻：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです） 研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp				
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	田巻 弘之	オリエンテーション、体力の構成要素とその評価方法の概要、PubMed、EndNoteの使い方		参考書を熟読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。（2時間）	
2	〃	骨格筋の収縮機構：筋力と運動効果とその評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
3	〃	骨格筋収縮の機能低下、筋持久力と運動効果とその評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
4	〃	不動による骨格筋の萎縮と運動・物理療法の効果とその評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
5	〃	不動による骨量低下と運動・物理療法の効果とその評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
6	〃	筋損傷と再生、炎症と運動・物理療法の効果とその評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
7	〃	骨組織・筋組織におけるメカノトランスダクションと生理活性物質：運動効果とその評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
8	與谷 謙吾	末梢性の運動神経伝導速度に関する評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
9	〃	中枢性の運動機能に関する評価：運動誘発電位		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
10	〃	反応時間計測①：指や全身(下肢)といった異なる運動課題での評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
11	〃	反応時間計測②：光や音といった異なる外部刺激での評価		データをまとめ、次回の準備を行う（2時間）	
12	〃	反応時間の細分化法①：筋電図を用いた評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
13	〃	反応時間の細分化法②：Electromechanical delayの評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
14	〃	反応時間の細分化法③：Visuo-motor related timeの評価		授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
15	〃	体力(敏捷性)に関する抄読・プレゼンテーション、まとめ		発表資料の作成、並びにこれまでの取組みを整理する。（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特殊研究 (323A2-1308)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	村田 宗紀・前田 明				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツにおけるパフォーマンスは脳内の処理に端を発し、最終的に身体運動によって表現される。したがって、力学を用いて身体運動を解析するバイオメカニクスは、パフォーマンスを直接的に解析する有益なツールである。本講義では、専門的にバイオメカニクスを用いた研究を行うために必要な基礎的な分析手法を理解するとともに、データの解釈について学ぶ。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（0％） ■授業への取り組み状況（20％） ■レポート等の提出状況（80％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	発表時の内容、質疑応答、レポートの考察を評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	教科書 Biomechanics and Motor Control of Human Movement(4th edition) David A. Winter その他論文					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	英語文献の抄読を行える英語力が必要である。	
オフィス・アワー	村田：随時 研究棟4階 404教員研究室 前田：事前連絡 研究棟4階 405教員研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	村田 宗紀 前田 明	バイオメカニクスについて			授業内容の予習復習（60分）	
2	〃	データ測定と信号処理①			授業内容の予習復習（60分）	
3	〃	データ測定と信号処理②			授業内容の予習復習（60分）	
4	〃	運動学①			授業内容の予習復習（60分）	
5	〃	運動学②			授業内容の予習復習（60分）	
6	〃	運動学③			授業内容の予習復習（60分）	
7	〃	逆動力学①			授業内容の予習復習（60分）	
8	〃	逆動力学②			授業内容の予習復習（60分）	
9	〃	逆動力学③			授業内容の予習復習（60分）	
10	〃	エナジェティクス①			授業内容の予習復習（60分）	
11	〃	エナジェティクス②			授業内容の予習復習（60分）	
12	〃	エナジェティクス③			授業内容の予習復習（60分）	
13	〃	順動力学①			授業内容の予習復習（60分）	
14	〃	順動力学②			授業内容の予習復習（60分）	
15	〃	順動力学③			授業内容の予習復習（60分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特殊研究演習 (326B2-2309)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	村田 宗紀・前田 明				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	スポーツにおけるパフォーマンスは脳内の処理に端を発し、最終的に身体運動によって表現される。したがって、力学を用いて身体運動を解析するバイオメカニクスは、パフォーマンスを直接的に解析する有益なツールである。本講義では、バイオメカニクス領域における先行研究のレビューを通じ、バイオメカニクスの歴史や最新知見を学ぶ。また、論文のレビューと討論を通じ、課題を多角的に検討する能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上を目指す。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（０％） ■授業への取り組み状況（５０％） ■レポート等の提出状況（５０％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	発表時の内容、質疑応答、レポートの考察を評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書 Biomechanics and Motor Control of Human Movement(4th edition) David A. Winter 各種論文					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	英語文献の抄読を行える英語力が必要である。	
オフィス・アワー	村田：随時 研究棟4階 404教員研究室 前田：事前連絡 研究棟4階 405教員研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	村田 宗紀 前田 明	文献抄読と討論：走動作に関する研究①			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
2	〃	文献抄読と討論：走動作に関する研究②			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
3	〃	文献抄読と討論：跳動作に関する研究①			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
4	〃	文献抄読と討論：跳動作に関する研究②			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
5	〃	文献抄読と討論：投動作に関する研究①			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
6	〃	文献抄読と討論：投動作に関する研究②			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
7	〃	文献抄読と討論：打動作に関する研究①			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
8	〃	文献抄読と討論：打動作に関する研究②			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
9	〃	文献抄読と討論：その他動作に関する研究①			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
10	〃	文献抄読と討論：その他動作に関する研究②			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
11	〃	文献抄読と討論：その他動作に関する研究③			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
12	〃	文献抄読と討論：その他動作に関する研究④			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
13	〃	文献抄読と討論：測定・分析手法開発に関わる研究①			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
14	〃	文献抄読と討論：測定・分析手法開発に関わる研究②			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
15	〃	文献抄読と討論：測定・分析手法開発に関わる研究③			授業の復習および発表資料の作成（60分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特殊研究 (323A2-1310)		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	鈴木 志保子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	アスリートの栄養サポートについて、スポーツ栄養学の視点から考察する。 さまざまなコンセンサスやガイドラインについて、引用された論文から考察し、現場での活用について検討していく。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業に出席し、積極的に取り組む（事前課題の予習を含む）ことを評価する。 授業から得られた考察や検討内容について、レポートを提出する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	栄養学やスポーツ栄養学の基本的な知識がない学生は、事 前の予習が多くなる。	
オフィス・アワー	授業間の休憩時間					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	鈴木 志保子	授業の進め方とスポーツ栄養学とは				
2	〃	①女性アスリートの三主徴 解説			関連論文の提示および予習（1時間）	
3	〃	①関連論文について発表および検討			関連論文発表準備（1時間）	
4	〃	①関連論文について発表および検討				
5	〃	②糖質の摂取 解説			関連論文の提示および予習（1時間）	
6	〃	②関連論文について発表および検討			関連論文発表準備（1時間）	
7	〃	②関連論文について発表および検討				
8	〃	③タンパク質の摂取 解説			関連論文の提示および予習（1時間）	
9	〃	③関連論文について発表および検討			関連論文発表準備（1時間）	
10	〃	③関連論文について発表および検討				
11	〃	④ビタミンの摂取 解説			関連論文の提示および予習（1時間）	
12	〃	④関連論文について発表および検討			関連論文発表準備（1時間）	
13	〃	④関連論文について発表および検討				
14	〃	⑤ミネラルの摂取 解説			関連論文の提示および予習（1時間）	
15	〃	⑤関連論文について発表および検討			関連論文発表準備（1時間）	
16	〃	⑤関連論文について発表および検討				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特殊研究演習 (326B2-2311)		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	鈴木 志保子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツ栄養学特殊研究によって得られた知識を実際の栄養管理に活用する方法について、練習期、試合期に分けて検討する。また、水分補給についても知識を習得するとともに実際の活用を検討する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業に出席し、積極的に取り組む（事前課題の予習を含む）ことを評価する。 授業から得られた考察や検討内容について、レポートを提出する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜配布する					
履修条件・ 関連科目	スポーツ栄養学特殊研究を履修していること		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	授業間の休憩時間					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	鈴木 志保子	授業の進め方				
2	〃	水分補給について 解説				
3	〃	事例から水分補給について検討			経験からの事例作成（1時間）	
4	〃	事例から水分補給について検討			経験からの事例作成（1時間）	
5	〃	事例から水分補給について検討			経験からの事例作成（1時間）	
6	〃	事例から水分補給について検討			経験からの事例作成（1時間）	
7	〃	練習期の栄養管理について解説				
8	〃	練習前について検討			経験からの事例作成（1時間）	
9	〃	練習中について検討			経験からの事例作成（1時間）	
10	〃	練習後について検討			経験からの事例作成（1時間）	
11	〃	試合期の栄養管理について解説				
12	〃	試合前について検討			経験からの事例作成（1時間）	
13	〃	試合当日の前について検討			経験からの事例作成（1時間）	
14	〃	試合中についての検討			経験からの事例作成（1時間）	
15	〃	試合後についての検討			経験からの事例作成（1時間）	
16	〃	まとめ				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特殊研究【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗			補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	1 競技力向上をめざすスポーツ教育現場、競技指導現場などフィールドで起こる問題となる事項を取り上げて、従来から明らかにされてきた学術的知見を参考にしながら、その実態をより客観的に把握する方法論ならびにその解決法を検討するとともに、介入調査や実験の可能性をさぐる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40％） ■レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	各テーマでの基本的な知識や考え方の理解ならびに一歩踏み込んだ問題意識の深さを基準にする。					
テキスト、教材 参 考 書	「現場で活きるスポーツ心理学」石井源信ほか編著 杏林書院 2012					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	オリエンテーション				
2	〃	一流選手の特徴を分析する（1）			授業の予習と復習（1時間）	
3	〃	一流選手の特徴を分析する（2）			授業の予習と復習（1時間）	
4	〃	コーディネーション能力を科学する（1）			授業の予習と復習（1時間）	
5	〃	コーディネーション能力を科学する（2）			授業の予習と復習（1時間）	
6	〃	スポーツの指導法（1）モチベーションの方法			授業の予習と復習（1時間）	
7	〃	スポーツの指導法（2）勝利至上主義の弊害			授業の予習と復習（1時間）	
8	〃	スポーツの指導法（3）鍛え過ぎの是非			授業の予習と復習（1時間）	
9	〃	スポーツの指導法（4）教え過ぎの是非			授業の予習と復習（1時間）	
10	〃	優秀指導者の特徴を分析する（1）			授業の予習と復習（1時間）	
11	〃	優秀指導者の特徴を分析する（2）			授業の予習と復習（1時間）	
12	〃	優秀指導者の指導法・コーチング法から学ぶ			授業の予習と復習（1時間）	
13	〃	オリンピックでの指導者・選手のストレスの実態			授業の予習と復習（1時間）	
14	〃	スポーツメンタルトレーニングと心理サポート			授業の予習と復習（1時間）	
15	〃	競技力向上と人間的成長をめざして			授業の予習と復習（1時間）	
16	〃	レポート				

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特殊研究演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	森 司朗				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要 及び達成目標	スポーツ心理学での基礎的な知見を参考にしながら、フィールドで起こる問題を様々な角度から、ゼミ形式による国内外の関連文献の購読ならびに調査の実施、結果の分析・考察・プレゼンテーションなどによって問題解決の糸口をさぐる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（40%） ■レポート等の提出状況（60%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	指導現場で起こる現象についてどれだけ関心をもち、その解決のための方策を考えることができるか、またプレゼンテーションや質疑応答で評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	現場で生きるスポーツ心理学 石井源信ほか編著 杏林書院 2012					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗	オリエンテーション				
2	〃	一流選手の特徴分析方法			授業の予習と復習（1時間）	
3	〃	一流選手の特徴分析方法と実施			授業の予習と復習（1時間）	
4	〃	ディスカッション			レポート（1時間）	
5	〃	コーディネーショントレーニングの意義			授業の予習と復習（1時間）	
6	〃	ディスカッション			レポート（1時間）	
7	〃	コーディネーショントレーニング効果の検証			授業の予習と復習（1時間）	
8	〃	ディスカッション			レポート（1時間）	
9	〃	プレゼンテーション&質疑			プレゼンテーションの反省レポート	
10	〃	優秀指導者の指導法に関する調査方法			授業の予習と復習（1時間）	
11	〃	優秀指導者の指導法に関する調査の実施			授業の予習と復習（1時間）	
12	〃	ディスカッション			レポート（1時間）	
13	〃	プレゼンテーション&質疑			プレゼンテーションの反省レポート	
14	〃	スポーツメンタルトレーニングと心理サポート			授業の予習と復習（1時間）	
15	〃	競技力向上と人間的成長をめざして			授業の予習と復習（1時間）	
16	〃	プレゼンテーションとレポート				

授業科目名 (ナンバリングコード)	体力科学特殊研究【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (※ 工学生命科学)
担当教員名	田巻 弘之・與谷 謙吾				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本科目では、身体活動による生体応答メカニズムに準拠した体力・健康の増進の学識と研究能力を養うため、筋骨格系や神経系などが運動実践で円滑に協調的に働くしくみを学ぶ。また行動体力に関する身体機能の応答をテーマに国内外の先行研究について抄読、議論する。 本授業により、行動体力の各要素を類別し、運動の効果について議論することができる。					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（70%） ☒ レポート等の提出状況（30%） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	論文の抄読・プレゼンテーションの内容、他者のプレゼンテーションに対する積極的な関わり、自身の研究テーマについての理解等から総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて適宜配布する。					
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクスの基礎知識を備えていること。			備考(教員メッセージ含む)	履修に関しては、事前に相談のこと。	
オフィス・アワー	田巻：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	田巻 弘之	オリエンテーション：今後の授業に関する説明、体力科学総論			次回の予定確認（1時間）	
2	〃	体力の定義と構成要素、PubMed、EndNoteの使い方			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。（2時間）	
3	〃	筋力：骨格筋の収縮と筋力・筋パワーの加齢変化			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
4	〃	筋持久力：運動持続に伴う筋細胞におけるイオン動態と運動効果の現れ方			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。（2時間）	
5	〃	低体力における筋萎縮と骨量低下、骨脆弱化			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。（2時間）	
6	〃	不動性の筋骨格系の萎縮に対する運動・物理療法の効果の現れ方			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。（2時間）	
7	〃	体力科学に関する文献紹介（抄読・プレゼンテーション）			英語論文を整理し、発表資料を作成する。（2時間）	
8	〃	体力科学に関する文献紹介（抄読・プレゼンテーション）			英語論文を整理し、発表資料を作成する。（2時間）	
9	與谷 謙吾	敏捷性に関するパフォーマンス評価と経年変化			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
10	〃	敏捷性：反応時間評価と注意点			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
11	〃	敏捷性：筋力トレーニングに伴う反応時間の変化			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
12	〃	敏捷性：視知覚トレーニングに伴う反応時間の変化			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
13	〃	敏捷性：反応時間の変化に伴う転移効果			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
14	〃	体力科学に関する文献紹介（抄読・プレゼンテーション）			英語論文を整理し、発表資料を作成する。（2時間）	
15	〃	体力科学に関する文献紹介（抄読・プレゼンテーション）			英語論文を整理し、発表資料を作成する。（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	体力科学特殊研究演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (※7生命科学)
担当教員名	田巻 弘之・與谷 謙吾				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	本科目では、身体活動による生体応答メカニズムに準拠した体力・健康の増進の研究成果を実践に結びつけるため、行動体力の基盤である筋骨格系や神経系、呼吸循環器系がシステムティックに機能することを学ぶ。本授業により、行動体力の各要素を類別し、運動効果に関する研究成果の応用について議論することができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業へ取り組み状況を総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	（参考書）1）計測法入門—計り方、計る意味、内山 靖、協同医書出版社（2001）、ISBN-13:978-4763910301、2）新しい骨形態計測、遠藤直人監修、ウイネット（2014）、ISBN-13:978-4434190803、3）細胞・組織染色の達人、大久保和央（著）、羊土社（2018）、ISBN-13:978-4758122375					
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクスの基礎知識を備えていること。			備考(教員メッセージ含む)	履修に関しては、事前に相談のこと。	
オフィス・アワー	田巻：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	田巻 弘之	オリエンテーション：今後の授業に関する説明等			次回以降のスケジュールの確認をする。（1時間）	
2	〃	体力の構成要素とその評価方法の概要、PubMed、EndNoteの使い方			参考書1を一読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。（2時間）	
3	〃	生体電気信号の記録：その原理と波形の意味と応用、イオンの流れを理解し、疲労やトレーニング、その評価に応用する			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
4	〃	筋収縮の誘発と筋張力の測定：筋疲労や促進現象の機序を理解し、可視化することで、筋力増加の運動処方に応用する			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
5	〃	筋損傷の可視化：生体内での化学的現象を捉える染色法と顕微鏡観察から筋組織のトレーニング効果や萎縮、崩壊の現状を見極める			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
6	〃	骨強度の測定：骨の力学的特性を計測し、加齢による折れ方の違いを検証する。骨の粘性と弾性に及ぼす因子を探り、これらを改善する体力トレーニング法に応用する			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
7	〃	行動体力に関する文献整理			自身の研究テーマをまとめる。（2時間）	
8	〃	プレゼンテーションと質疑応答①			疑問点や改善点をまとめる。（2時間）	
9	與谷 謙吾	反応時間計測①：指や全身(下肢)といった異なる課題での評価			授業内容に内容（記録）を整理し、関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
10	〃	反応時間計測②：光や音といった異なる刺激による評価			授業内容に内容（記録）を整理し、関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
11	〃	反応時間の細分化①：筋電図を用いた反応時間評価			授業内容に内容（記録）を整理し、関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
12	〃	反応時間の細分化②：Electromechanical delayの評価			授業内容に内容（記録）を整理し、関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
13	〃	体力(敏捷性)に関する抄読・プレゼンテーション①			発表資料の作成、並びにこれまでの取組みを整理する。（2時間）	
14	〃	体力(敏捷性)に関する抄読・プレゼンテーション②			発表資料の作成、並びにこれまでの取組みを整理する。（2時間）	
15	〃	行動体力に関する文献整理			自身の研究テーマを整理する。（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特殊研究【夜間】		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	村田 宗紀・前田 明				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツにおけるパフォーマンスは脳内の処理に端を発し、最終的に身体運動によって表現される。したがって、力学を用いて身体運動を解析するバイオメカニクスは、パフォーマンスを直接的に解析する有益なツールである。本講義では、専門的にバイオメカニクスを用いた研究を行うために必要な基礎的な分析手法を理解するとともに、データの解釈について学ぶ。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（0％） ■授業への取り組み状況（20％） ■レポート等の提出状況（80％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	発表時の内容、質疑応答、レポートの考察を評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	教科書 Biomechanics and Motor Control of Human Movement(4th edition) David A. Winter その他論文					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	英語文献の抄読を行える英語力が必要である。	
オフィス・アワー	村田：随時 研究棟4階 404教員研究室 前田：事前連絡 研究棟4階 405教員研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	村田 宗紀 前田 明	バイオメカニクスについて			授業内容の予習復習（60分）	
2	〃	データ測定と信号処理①			授業内容の予習復習（60分）	
3	〃	データ測定と信号処理②			授業内容の予習復習（60分）	
4	〃	運動学①			授業内容の予習復習（60分）	
5	〃	運動学②			授業内容の予習復習（60分）	
6	〃	運動学③			授業内容の予習復習（60分）	
7	〃	逆動力学①			授業内容の予習復習（60分）	
8	〃	逆動力学②			授業内容の予習復習（60分）	
9	〃	逆動力学③			授業内容の予習復習（60分）	
10	〃	エナジェティクス①			授業内容の予習復習（60分）	
11	〃	エナジェティクス②			授業内容の予習復習（60分）	
12	〃	エナジェティクス③			授業内容の予習復習（60分）	
13	〃	順動力学①			授業内容の予習復習（60分）	
14	〃	順動力学②			授業内容の予習復習（60分）	
15	〃	順動力学③			授業内容の予習復習（60分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特殊研究演習【夜間】		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	村田 宗紀・前田 明				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	—	受け入れ人数	—
授業の概要 及び達成目標	スポーツにおけるパフォーマンスは脳内の処理に端を発し、最終的に身体運動によって表現される。したがって、力学を用いて身体運動を解析するバイオメカニクスは、パフォーマンスを直接的に解析する有益なツールである。本講義では、バイオメカニクス領域における先行研究のレビューを通じ、バイオメカニクスの歴史や最新知見を学ぶ。また、論文のレビューと討論を通じ、課題を多角的に検討する能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上を目指す。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（0％） ■授業への取り組み状況（50％） ■レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	発表時の内容、質疑応答、レポートの考察を評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書 Biomechanics and Motor Control of Human Movement(4th edition) David A. Winter 各種論文					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	英語文献の抄読を行える英語力が必要である。		
オフィス・アワー	村田：随時 研究棟4階 404教員研究室 前田：事前連絡 研究棟4階 405教員研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	村田 宗紀 前田 明	文献抄読と討論：走動作に関する研究①			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
2	〃	文献抄読と討論：走動作に関する研究②			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
3	〃	文献抄読と討論：跳動作に関する研究①			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
4	〃	文献抄読と討論：跳動作に関する研究②			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
5	〃	文献抄読と討論：投動作に関する研究①			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
6	〃	文献抄読と討論：投動作に関する研究②			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
7	〃	文献抄読と討論：打動作に関する研究①			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
8	〃	文献抄読と討論：打動作に関する研究②			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
9	〃	文献抄読と討論：その他動作に関する研究①			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
10	〃	文献抄読と討論：その他動作に関する研究②			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
11	〃	文献抄読と討論：その他動作に関する研究③			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
12	〃	文献抄読と討論：その他動作に関する研究④			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
13	〃	文献抄読と討論：測定・分析手法開発に関わる研究①			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
14	〃	文献抄読と討論：測定・分析手法開発に関わる研究②			授業の復習および発表資料の作成（60分）	
15	〃	文献抄読と討論：測定・分析手法開発に関わる研究③			授業の復習および発表資料の作成（60分）	